

特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会 監修  
発行



keionkyo.org



Twitter



Facebook



YouTube

# DiGiRECO.JR

デジレコ・ジュニア 2022年8月号 VOL.53

全国の高等学校軽音楽部に無料配布！

本誌は高等学校軽音楽部以外には配布しておりません。  
写真掲載に関しては各高等学校の許可を得ています。

2,036校



ライブ本番前に行く

## サウンド・チェックの作法

初めての THE FIRST STEP OF DESK TOP MUSIC  
デスクトップ・ミュージック

8/26(金) KEIONGAKUBUSEMINAR 軽音学ぶセミナー

作曲 / アレンジ / DTM / レコーディングが学べる

参加校募集

詳しくは1

### ロックの解体新書

TETORA / 今日くらいは  
ボルカドットスティングレイ / ICHIDAIJI  
Saucy Dog / シンデレラボーイ  
ストレイトナー / スパイラル  
Cody・Lee (李) / 異星人と熱帯夜

### 軽音楽コンテストを観に行こう！

- 第4回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会
- 第6回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会
- 第1回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会
- 第11回 愛知県高等学校軽音楽大会

参加校募集

KEIONGAKUBUSEMINAR 軽音学ぶセミナー

軽音楽部に関する基礎知識や実技を一挙に学べる

KEIONGODOENSOUKAI 軽音合同演奏会

練習の成果を発表し、他校からも学べる練習試合

# 軽音協イベント・カレンダー

特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会

TEL : 045-913-0901 info@keionkyo.org



KEIONGAKUBUSEMINAR

## 軽音学ぶセミナー

軽音楽部に関する基礎知識や実技を一挙に学べる



8/1 (月)

富山県

富山県立富山工業高等学校

8/21 (日)

兵庫県

兵庫県立武庫荘総合高等学校 (仮)

参加無料

複数の高校を集めた技術講習会です  
パートごとに初級・応用の講義を実施  
生徒はプロの講師から直接教わります  
参加校・顧問間の交流を促進します

KEIONGODOENSOUKAI

## 軽音合同演奏会

練習の成果を発表し、他校からも学べる練習試合



9/4 (日)

東京都

専門学校東京ビジュアルアーツ

参加無料

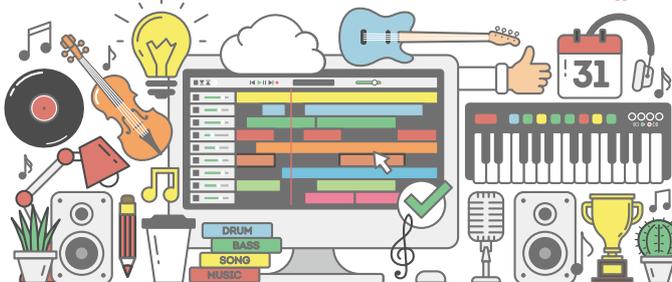
複数の高校を集めた合同演奏会です  
演奏後、講師から講評が受けられます  
他校の演奏を見聞きし、参考にします  
参加校・顧問間の交流を促進します

KEIONGAKUBUSEMINAR

## 軽音学ぶセミナー

作曲/アレンジ/DTM/レコーディングが学べる

FOR  
DJISTAR



8/26 (金)

東京都

宝塚大学 東京メディア芸術学部  
10:00 ~ 16:00

参加無料

実施要項と申込書  
はこちらから



- ①音の成り立ちを視覚的に学べるシンセサイザー初級講座
- ②初めてのオリジナル楽曲制作/アレンジ講座
- ③iPhone/iPadで始めるGarageBand入門講座
- ④パソコンを使ったDTM (Desk Top Music) 初級講座
- ⑤初めてのレコーディング/ミキシング講座

## DIGIRECO BAND CLINIC

※実施要項を用意しておりますので、右のQRコードからアクセスしてください。  
※開催の相談は顧問の先生を通して行ってください。



あなたの学校の軽音楽部に  
軽音協が出向きます!

無料

高等学校の軽音楽部をよく知る講師がアンサンブルのアドバイスをしたり、音響や電気の初歩的な知識やサウンドチェックの仕方など、実施校の要望に応じて開催します。

編集長の言葉 ...4

配布校リスト ...6

### お知らせ

軽音協イベント・カレンダー ...2

第1回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会 観覧のご案内 ...5

軽音楽コンテストを観に行こう！ ...12

### REPORT

軽音学ぶセミナー：東京都 / 日本工学院専門学校 ...10

## 特集

ライブ本番前に行う  
**サウンド・チェックの作法** ...13

初めての  
**デスクトップ・ミュージック** ...22

### CONTENTS

ロックの解体新書 ...26

TETORA / 今日くらいは

パルカドットスティングレイ / ICHIDAIJI

Saucy Dog / シンデレラボーイ

ストレイテナー / スパイラル

Cody・Lee (李) / 異星人と熱帯夜

音楽 / エンタメ業界の仕事 2022 ...32

MUSICQuiz ～軽音ミュージッククイズ～④ ...41

知っておくべき 軽音楽部の常識 10

～ドラム編～ ...42

全国学校軽音楽部協会は  
「音楽やバンド活動を通して、  
これからの人材を育てる」  
の理念のもと高等学校軽音楽部の  
活動を応援しています。

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。

私たちは、支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会



keionkyo.org

## 一番勝ちたい人が勝つ ～モチベーション～

今月の巻頭特集は、これから始まる「夏の大会」を意識したテーマにしました。良い演奏を行うためには日頃の練習は言うに及ばず、演奏会場でのサウンド・チェックから勝負は始まっているとも言えます。誤解のないように断っておきますが、部活動は大会で勝つことだけが目標ではありません。しかし、大会に出る以上、上を目指さないと出場している他のバンドや予選落ちしたバンドに対して失礼になります。楽器の演奏もスポーツと一緒に、目標がなく、漫然と練習を繰り返していてもなかなか上達しません。大袈裟な言い方ですが、現存する地球上の生物は「生きる」ということに向かって努力を繰り返してきたことで進化をし、現在まで生き残ってきた歴史があると思います。たとえ、楽器の演奏という小さな事象であっても、努力することが進化や進歩につながると思います。

大会で入賞する「魔法」はあると言えば、あります。それは皆さんが「入賞しよう」と思う気持ちの度合いです。スポーツの世界では「一番勝ちたい人が勝つ」という格言があります。文字で読んでしまえば、当たり前な感じがしますよね…笑。各学校によって軽音楽部を取り巻く環境は大きく異なると思います。機材がない、部室がない、時間がない…。うまくいかない理由やできない理由は、いつも簡単に思い付きます。確かに、軽音楽部の環境は平等ではありません。しかし、そんなことは地球上のすべての事象に対して言えることです。植物や昆虫、動物は文句も言わず、今の環境下で最大

限の努力をします。高校生の皆さんにとって、受験も、就職も、恋愛も、いろいろなことが同じ環境とは言えません。ただし、たった1つだけ平等なことがあります。それは皆さんの中にある「やる気」です。そう思って、もう1度、「一番勝ちたい人が勝つ」を読むとどうですか。一番を狙わない人がなぜ一番になれるのでしょうか。一番になる人は一番になりたいと思う気持ちが一番強い人です。つまり、モチベーションの強さが結果に出るのではないのでしょうか。努力は人を裏切らないと言います。皆さんの内なるモチベーションはそう感じていますか。「やる気」があれば「知恵」が働きます。それが「魔法」です。ちょっと大袈裟ですが、植物も、昆虫も、古代人も、皆が「知恵」を使って太古の昔から生き残ってきたからこそ、「今」があるのです。現代人の、現役高校生の皆さんも「知恵」を最大限に出して努力をすれば、できないことは何もありません。「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も。成らぬは人の、為さぬなりけり」というのは会津藩主、上杉鷹山の言葉です。意識すると「何事もやればできる。やらないから、やり切らないからできないんだよ」ということですね。この言葉を部室の壁にドーンと貼り、部員で共有して、部活動も、勉強も、より上を目指して、頑張ってくださいと思います。

では、また…。



編集長 三谷佳之

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 理事長  
 日本部活動学会 (JESECA) 理事  
 株式会社ミュージックネットワーク 代表取締役  
 mitani@keionkyo.org  
 Twitter @yoshiyukimitani



全国学校軽音楽部協会



DIGIRECO.JR VOL.53 電子版



YouTubeチャンネル

### 三谷佳之 YOSHIYUKI MITANI

小学生で電気に興味を持つ。中学生でプリティッシュ・ロックに目覚め、将来はイギリスに住む！と妄想。英語が必須と実感。エレキ・ギターを弾きつつ、ジブセワイパーに興味を持ち、楽器よりも電気に傾倒。国立奈良工業高等専門学校/電気工学科に進学。ロックバンドを組むが、長続きせず。在学中に興味の対象が広告宣伝や販売促進、マーケティングに移る。果電子楽器メーカーに就職後、最新テクノロジーだった通信事業に興味を持ち、9年間の勤務を経て、独立。株式会社ミュージックネットワークを設立。インターネットのない時代から音楽と通信ネットワークの分野で数々の日本初のビジネスを立ち上げる。

2000年の少し前、インターネット業界では当たり前の「コンテンツは無料」というコンセプトを雑誌に応用した「無料雑誌」を思い付き、創刊。2013年、高校の軽音楽部向けの無料雑誌「DIGIRECO.JR」を創刊。2018年、大学の軽音楽サークル向けの無料雑誌「DIGIRECO.SR」を創刊。同年、特定非

営利活動法人「全国学校軽音楽部協会」を設立。

音楽面では約15年前にバンドへの興味が再燃。ハードロック系イベントを主催する。その後、主催するよりも出演する方が楽しそう...ということで方向転換。高専生時代から好きだったヘヴィメタルの元祖「BLACK SABBATH」のトリビュート・バンド「BLOOD SABBATH」を結成。年間12回以上のライブを展開。編集長の立場を利用し、BLACK SABBATHのメンバーに会うなど...やりたい放題の公私混同。2013年5月、直訳ロッカーの王様と日本語でBLACK SABBATHの名曲を演奏したアルバム「黒い安息日伝説」を発売。好調な売れ行きに気を良くして、現在、第2弾を計画中。2015年5月、BLACK SABBATHのギタリストであるトニー・アイオ三のトリビュート・アルバムに参加。世界デビューを果たす。

●会社のホームページで設立以来の活動を紹介しています



●BLOOD SABBATH (www.bloodsabbath.com)



令和4年度 第1回

# 高等学校軽音楽コンテスト 関東大会

8/24 (水)

10:00~18:00

観覧無料

## 軽音楽コンテスト を観に行こう！



観覧には事前登録が必要です  
登録はこちらから

日時：2022年8月24日（水）10:00～18:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール  
東京都渋谷区代々木神園町3-1（参宮橋駅、代々木公園駅）

主催：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会  
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

後援：東京都教育委員会・神奈川県教育委員会・千葉県教育委員会・埼玉県教育委員会  
（予定）茨城県教育委員会・群馬県教育委員会・栃木県教育委員会・山梨県教育委員会

### 軽音協の主催大会の特長

- ①音楽大学や音楽専門学校の審査員3名によるアンサンブルの完成度を評価する審査
- ②演奏が終わるたびに審査員の講評があり、他校のバンドの演奏から学ぶことが可能
- ③パートごとに音楽大学や音楽専門学校の講師がアドバイスするコメント用紙を提供
- ④出場するバンドを集めたクリニックを本選前に開催。完成度の高い演奏をサポート
- ⑤すべてのバンドの演奏映像を編集&公開。後から何度でも視聴し、学ぶことが可能

### 出場校

東京都	駒澤大学高等学校 中央大学杉並高等学校 東京都立向丘高等学校 東京都立鷺宮高等学校 東京都立足立新田高等学校 日本大学第二高等学校
神奈川県	神奈川県立厚木高等学校 神奈川県立市ヶ尾高等学校 神奈川県立上鶴間高等学校 神奈川県立藤沢総合高等学校 相模女子大学高等部
千葉県	千葉英和高等学校 千葉県立東葛飾高等学校 東海大学付属浦安高等学校
埼玉県	埼玉県立松伏高等学校 山村国際高等学校 本庄東高等学校
茨城県	茨城県立竹園高等学校 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
群馬県	共愛学園高等学校 群馬県立伊勢崎興陽高等学校
栃木県	栃木県立足利南高等学校
山梨県	山梨県立笛吹高等学校 日本大学明誠高等学校

特定非営利活動法人

全国学校軽音楽部協会

高等学校軽音楽コンテスト関東大会事務局

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405  
TEL：045-913-0901 / FAX：045-913-1900  
Email：info@keionkyo.org

これまでの  
大会映像は  
こちら



YouTube



配布校募集!

全国の高等学校で、軽音楽部のある2,036校に無料配布しています。

この欄に記載されていない高等学校で本誌を希望される場合は、お手数ですが、当協会までご一報ください。また、誌面に対するご意見・ご要望などがございましたら下記までお寄せください。本誌は広告収入で成り立っており、配布に関する費用は一切、かかりません。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 TEL : 045-913-0901 / FAX : 045-913-1900

Table listing high schools across Japan with their names, addresses, and phone numbers, categorized by region (Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc.).

3994 小平市 東京都立小平高等学校 軽音楽部
4864 小平市 東京都立小平南高等学校 フォークソング部
4865 小平市 白梅学園高等学校 軽音楽部

6798 横浜市 神奈川県立横浜緑園高等学校 軽音楽部
4110 横浜市 神奈川県立松岡高等学校 軽音楽部
9488 横浜市 桐蔭学園高等学校 軽音楽部

▲埼玉県
4232 さいたま市 さいたま市立浦和高等学校 音楽部
4231 さいたま市 さいたま市立大宮北高等学校 軽音楽部

5184 香取市 千葉県立佐伯白楊高等学校 フォークソング部
5186 香取市 千葉県立成南高等学校 シンセイイザオーケストラ部
5187 佐倉市 千葉県立佐倉高等学校 軽音楽部

4147 横浜市 神奈川県立横浜修徳高等学校

6908 平塚市 神奈川県立平塚高等学校 軽音楽部

5183 香取市 千葉県立東総工業高等学校 音楽部

5466 日立市 茨城県日立高等学校 軽音楽部

Table listing Japanese universities and colleges, organized by prefecture (e.g., 茨城県, 東京都, 大阪府). Each entry includes the institution name, its address, and a telephone number. The table is divided into sections by prefecture and includes sub-sections for specific university types or programs.



KEIONGAKUBUSEMINAR

# 軽音楽がセミナー

軽音楽部に関する基礎知識や実技を一挙に学べる

【参加校】東京都立小川高等学校・東京都立上水高等学校・東京都立白鷗高等学校・東京都立文京高等学校・東京都立武蔵高等学校・上野学園高等学校・東海大学付属高輪台高等学校・東京実業高等学校・新渡戸文化高等学校・神奈川県立鶴嶺高等学校・千葉英和高等学校・茂原北陵高等学校・埼玉県立草加南高等学校・浦和麗明高等学校・霞ヶ浦高等学校・山梨県立甲府第一高等学校

【協力】日本工学院専門学校

中間試験が終わり、軽音楽部の活動も軌道に乗り始めた6月上旬。東京では久々の開催となる技術講習会「軽音楽がセミナー」を東京都／大田区にある日本工学院専門学校で開催しました。感染症対策の一環として、参加校を「午前」と「午後」に分ける形で実施。合計で16校／215名の軽音楽部員が参加しました。

定刻となり、開会式で講習会の趣旨を説明し、講師陣の紹介が終わると、パートごとに教室へ移動し、レッスンを開始。講義は40分ずつを2コマ行いました。ボーカルは発声練習や肺の仕組みをホワイトボードに描きながら「腹式呼吸」のコツを解説。ギターやベースは基礎的な運指練習や自宅でできるウォーミングアップのコツを紹介。ドラムは叩く際の正しいフォームや基礎トレーニングを、キーボードは音色の作り方やオリジナル曲のアレンジの講義を行いました。

後半は、代表バンドによるアンサンブルのクリニックを実施。講師がアンサンブルを中心に講評を伝え、見学の生徒も自分のバンドのことに置き換えて話を聞きました。



6/4 軽音楽がセミナー①日本工学院専門学校

開始	終了	分	会場/参加校集合 (3号館 1F)				
9:15	9:30	15	【午前の部】 3号館 3F: 開会式、趣旨説明、講師紹介 (演奏)				
9:45	10:00	15	各教室に移動				
	講師		ボーカル 横山聖実先生 2号館 4F セッションルーム	ギター 島屋 幸先生 3号館 3F 教室	ベース 高野清宗先生 2号館 2F SCR	ドラム 齋村純弥先生 2号館 4F MPS	キーボード Ryuta先生 2号館 2F ML
10:00	10:40	40	初級編	初級編	初級編	初級編	初級編
10:40	10:50	10	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
10:50	11:30	40	応用編	応用編	応用編	応用編	応用編
11:30	11:40	10	移動→3号館 3F				
11:40	11:55	15	バンドクリニック (東京都立文京高等学校)				
11:55	12:10	15	バンドクリニック (東京都立文京高等学校)				
12:10	12:25	15	バンドクリニック (東京都立上水高等学校)				
12:25	12:35	10	休憩 (アンケート記入、インタビュー)				
12:35	12:50	15	音楽/エンタメ業界の世界				
12:50	13:05	15	閉会式/写真撮影/アンケート回収/解散				
13:05	13:30	25	施設見学ツアー (自由参加)				

開始	終了	分	会場/参加校集合 (3号館 1F)				
13:45	14:00	15	【午後の部】 3号館 3F: 開会式、趣旨説明、講師紹介 (演奏)				
14:15	14:30	15	各教室に移動				
	講師		ボーカル 横山聖実先生 2号館 4F セッションルーム	ギター 島屋 幸先生 3号館 3F 教室	ベース 高野清宗先生 2号館 2F SCR	ドラム 齋村純弥先生 2号館 4F MPS	キーボード Ryuta先生 2号館 2F ML
14:30	15:10	40	初級編	初級編	初級編	初級編	初級編
15:10	15:20	10	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
15:20	16:00	40	応用編	応用編	応用編	応用編	応用編
16:00	16:10	10	移動→3号館 3F				
16:10	16:25	15	バンドクリニック (茂原北陵高等学校)				
16:25	16:40	15	バンドクリニック (新渡戸文化高等学校)				
16:40	16:55	15	バンドクリニック (千葉英和高等学校)				
16:55	17:05	10	休憩 (アンケート記入、インタビュー)				
17:05	17:20	15	音楽/エンタメ業界の世界				
17:20	17:35	15	閉会式/写真撮影/アンケート回収/解散				
17:35	18:00	25	施設見学ツアー (自由参加)				



「1年生が参加したのですが、基本的なことから教えてくださったので、とても成長することができました。教わったことをこれからの練習に生かして、上手になりたいです」「基礎がないと技術力は積み重ねられないですし、自宅でもできる練習方法も教えてもらったので、すごく勉強になりました」(神奈川県立鶴嶺高等学校)



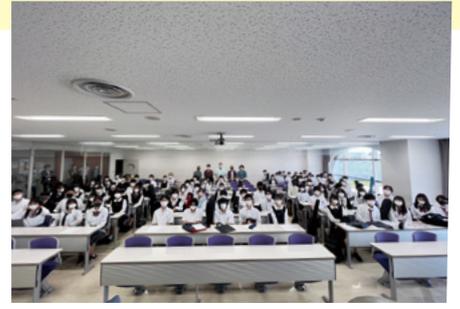
「主観的な視点では気づけない点や直した方がよい癖を指摘してもらえたのが、すごく良かったです。これからは生かしていきたいと思います」「初心者がつまずいてしまいそうなことの紹介から教えてもらったので、参考になりました。バンドクリニックも客観的な感想を聞いたので、とても良かったです」(東京都立文京高等学校)



「私は今年から軽音楽部に入部したのですが、すごくわかりやすく教えていただけたので、勉強になることばかりでした。講義の後半にベースのスラップを教われたのも良かったです」「隣の席に上手な子がいたのですが、自分との差を感じてしまい、すごく感化されました。参加して本当に良かったです」(東京都立白鷗高等学校)



▲ボーカル：自宅で行える発声練習と歌唱時の姿勢について解説。腰に手を当てて、腹筋を使つての呼吸を確認しました



▲午前の部には各校から 72 名の軽音楽部員が参加しました



▲午後の部には各校から 143 名の軽音楽部員が参加しました



▲ギター：ウォーミングアップに最適な連指練習に挑戦！



▲ベース：正しいベースの構え方と指弾きをする際のコツ



▲強弱を付けたスティック・コントロールの練習法を紹介



▲ドラム：シングルとダブルのストロークの叩き分けを実践



▲キーボード：コードとボイスの成り立ちを丁寧に解説



「講師の先生から様々なことを教えてもらったので、今まで以上に音楽や楽器が好きになりました。基礎練習が一番大切と話していたのが特に印象に残りました」「僕はドラムパートの講習会に参加しました。70 や 80 くらいのゆっくりとしたテンポでの基礎トレーニングが、とても参考になりました」(埼玉県立草加南高等学校)



「私たちの高校は初心者ばかりなのですが、講義がとてわかりやすく、緊張を解してくれるような雰囲気もあり、とても良かったです」「バンドクリニックではバンド内でのコミュニケーションやパフォーマンス面など、様々な視点からのアドバイスがあり、自分に置き換えて話を聞くことができました」(東京都立武蔵高等学校)



「なかなか講師の先生に楽器の演奏やバンドのアンサンブルについて教わる機会がないのですが、今日はいろいろなアドバイスをもらうことができたので、貴重な機会になりました」「僕は今まで独学でやってきた部分が多かったのですが、基本的なことから学ぶことができたので、参加して良かったです」(東京都立上水高等学校)

# 軽音楽コンテスト を観に行こう！

観覧には  
事前登録が必要です  
登録はこちら



今年も軽音楽コンテストの季節がやって来ました。当協会では、近畿北陸地方・中部地方に加えて、今夏より関東地方を対象にしたブロック大会を開催します。コピー曲／オリジナル曲を問わずにアンサンブルを中心に審査し、演奏後に審査員から講評が伝えられるなど、観覧者も大いに勉強になる大会です。軽音楽部員の皆様のご来場をお待ちしています。

## 関東

### 第1回 高等学校軽音楽 コンテスト関東大会



詳しくはこちら

8/24 (水)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール  
時間：10:00～18:00

出場校：関東地方 / 1都7県  
(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、山梨県)



## 中部

### 第6回 高等学校軽音楽 コンテスト中部大会



詳しくはこちら

8/4 (木)

会場：名古屋文理大学文化フォーラム 中ホール  
時間：12:00～18:00

出場校：東海・中部・北陸地方 / 10県 (愛知県、静岡県、岐阜県、三重県、長野県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、福井県)



## 近畿 北陸

### 第4回 高等学校軽音楽 コンテスト近畿北陸大会



詳しくはこちら

7/31 (日)

会場：舞鶴市総合文化会館 大ホール  
時間：10:00～17:00

出場校：近畿・北陸地方 / 2府8県 (大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県、富山県、石川県、福井県)



# ライブ本番前に行う

# 「サウンド・チェック」の作法



○サウンド・チェックはなぜ行うのか！？

○良いサウンド・チェックのための作法

○各パートのサウンド・チェックの流れ

○モニター・スピーカー調整のポイント

○楽曲演奏時の注意点

大会やコンテストなど大きな会場でライブをする場合には、本番の前に必ず「サウンド・チェック」を行います。教室や視聴覚室などの小さな会場であっても、PA セットやミキサーなどの音響機器を使うのであれば同様に行っておくべきですが、特にホールなどの広い会場の場合は、ドラム・セットやギター・アンプなど、すべての楽器の音をマイクで拾う必要があるため、必ず行われる作業です。

しかし、サウンド・チェックをなぜ行うのか、何のために行うのかをきちんと理解できていないと、その効果は半減してしまいます。まだ経験したことがないという新入部員はもちろん、何度も経験しているという上級生も、改めてライブ本番前に行うサウンド・チェックの意味と注意点を見直してみましょう。それこそが、自分たちの演奏やイベント自体の成功に大きく近づく鍵です！

# サウンド・チェックはなぜ行うのか!?

サウンド・チェックの目的は大きく2つあります。1つは、音響スタッフが本番前に演者が出す音を確認するためです。演者が「自分たちはこういう音を出して、こういう演奏をします」と音響スタッフに報告したり、最終的にPAスピーカーから出す音を決めてもらう作業です。もう1つの目的は、自分たち演者側にとって本番で演奏しやすいモニター環境を作ることです。ステージ上で自分の音や他パートの音がちゃんと聴こえて合奏しやすいようにしておくことで、本番でベストなパフォーマンスをすることができます。

普段、学校の練習場でバンド練習をする時には、ボーカル・マイクをミキサーにつなげて、PAスピーカーから音を出していると思います。場合によっては、キーボードやアコースティック・ギターなども同じようにしているかもしれませんが、ギター・アンプやベース・アンプ、ドラムは生音のことが多いと思います。練習場や部室ではそれで十分ですが、大きな会場で演奏する場合には音量が足りません。そのため、すべての楽器にマイクを立てて音を増幅させる必要があります。従って、それらの音を集音&調整してメイン・スピーカーから出す役割の「音響スタッフ」が必要となるわけです。

ライブはバンドだけではできません。特に、音響スタッフとの連携は、しっかりと行っておかなければなりません。そのための最も重要な作業が「サウンド・チェック」です。最終的に客席に届けられる音や、演奏のしやすさはサウンド・チェック次第で大きく変わります。ライブを成功させるために行う大切な準備、それがサウンド・チェックなのです。

## ライブは演者とスタッフの共同作業

出演するバンド数や会場のスケジュールの都合などによって方法は様々ですが、サウンド・チェックは当日の本番前や前日に、本番と同じステージで行います。しかし、こういった工程で行うにしても、サウンド・チェックは演者と音響スタッフが協力しあって、本番で「客席に良い演奏を届ける」ために行う共同作業であることには変わりありません。

照明を使用するライブであれば、同時に照明スタッフが色合いやタイミングを確認します。その場合は、演者、音響スタッフ、照明スタッフ三者の準備時間となります。広く考えればさらに、楽器や機材のトラブルがないようにサポートする「ステージ・スタッフ」、演者を案内したりする「誘導係」、時間を計測する「タイム・キーパー」、司会進行をする「司会者」…といった、イベントのステージに関わるすべての人たちの動きを確認する時間でもあります。

音響や照明をはじめ、スタッフのことを日本では「裏方」と呼びますが、表方である演者のためにスタッフがいるのではなく、単に役割分担として「表」と「裏」と呼んでいるだけで、上下関係はありません。実際に、どちらが欠けてもライブを行うことはできず、ライブとはたくさんの人たちが共同で作り上げるものなのだという事を念頭に置いておきましょう。

もちろん、それは教室などで行う発表会や文化祭のステージであっても、大会などのコンテスト形式のステージであっても同様です。演者が本番で行うことを各スタッフが把握し共有することで、はじめて一緒に良いライブ（イベント）を作ることができるのです。

そのためには、コミュニケーションが最も大切です。ライブの現場は重い機材も多く、少しの行き違いで怪我や機材の故障といったトラブルにつながってしまいます。お互いに大きな声でハキハキと発言しましょう。「よろしく願います!」の一言も、円滑にサウンド・チェックを進める大きなポイントです。

## サウンド・チェックは練習じゃない

基本的なサウンド・チェックの流れは、楽器のセッティング→各楽器のチェック→本番で演奏する楽曲、あるいはその一部分を演奏→モニターの調整…という順番に行っていきます。

注意しなければならないのは、サウンド・チェックは「本番前の練習時間ではない」ということです。自分たちの演奏がうまくできているかどうかよりも、各楽器の音量や音色を音響スタッフと確認し合い、自分が演奏しやすいモニターに調整してもらうなど、本番が良い環境で迎えられるようにするための時間です。

スタッフと一緒に、本番を成功させる最終調整をすることを第一に考えましょう。



▲音響スタッフをはじめ、たくさんのスタッフとともにライブを作り上げるためにサウンド・チェックが行われます

# 良いサウンド・チェックのための作法

## セッティング・シートは最重要

ライブは演者とスタッフと共同で行うものです。そのため、出演者の情報が前もってきちんとスタッフに伝わっている必要があります。基本的に、出演するバンドは必ず事前に「セッティング・シート」の記入をします。バンドの情報、使用する機材の情報、楽曲の情報などを前もって伝えるためです。

サウンド・チェックは、セッティング・シートを元に進めていきます。提出したもから絶対に変更してはいけないということはありませんが、なるべく変更がないように、バンド単位、学校単位でしっかりと提出期限までにきちんと決めるべきことは決めておきましょう。もし、変更がある場合は速やかに報告することが礼儀です。「曖昧な部分があるけど当日考えればいい」といった不確定要素があると、スタッフ側は困惑し、大きな迷惑をかけてしまう可能性があります。もちろん、当日に急な変更を余儀なくされる場合もありますが、事前に共有するべき情報が変更すること前提なのであれば、スタッフは何の事前準備もできなくなってしまいます。



◀リハーサルをスムーズに進めるためには全員の協力が必要です

スタッフは「身内」「味方」です。スタッフへのバンドの自己紹介の場がセッティング・シートであり、サウンド・チェックなのです。

## リハーサルは短い？長い？

サウンド・チェックは時間との勝負です。ス

ムズな進行のためには1分1秒が大切です。演者側からみれば、自分たちに与えられた時間は10～15分ぐらいと、とても短いわりに、待ち時間は長いので、緊張感なくダラダラと行動してしまうのも、気持ち的には理解できなくはありません。しかし、スタッフはその15分のサウンド・チェックを出演バンドすべてで行っているのです。10バンドであれば2時間半、30バンドであれば7時間半(!)です。それに、当然本番も全バンド分動きずめです。

しかも、楽器や音響機材などを搬入してセッティングするために、スタッフは演者よりも数時間前に会場に入って働いています。そう考えれば、タイム・テーブルを守り、順番がくるまでに準備をきちんとしておき、ステージ上ではテキパキと動き、ハキハキと大きな声で挨拶や返事をする…といった、スムーズな進行を行うことが大事だと思えるはずで

## スムーズな進行を考えた機材準備

機材は、本番で必要なものをステージに持っていきましょう。セッティングの時間短縮やトラブルの軽減になります。また、セッティングが素早く行えるように、エフェクターをあらかじめつないでおく、ドラムの機材を組み立てておく、キーボードを運ぶ順番と手伝う人を決めておく…など、控室やステージ袖である程度の準備をしておくことも大事です。

なお、ステージ上では走ったりせず、必ずギターはスタンドに立てかけ、ケーブルを踏んだり足を引っ掛けないように注意しましょう。

## セッティング・シートの書き方

※必要事項はもれなく丁寧に書こう

FAX: 045-913-1900 NPO 法人 全国学校軽音楽部協会 行

合同演奏会バンド・エントリー・シート①

バンド名: デジレコ高等学校 バンド名: DIGIRECO JR.

楽器名	人数	楽器名	人数	持ち込み機材の記入(記入してください)
キーボード	1	Dr.	1	ベッセル、スネア
ギター	2	キーボード	2	キーボード1台、キーボードスタンド

楽器の準備状況 (例: 294)

立ち位置 (例: Cho, Dr., Key, Gtr.)

マイクの位置と向き (例: Cho, Dr., Key, Gtr.)

演奏時間はけっこう大事。ちゃんと調べよう

どのアンプを使うのか、ドラムのタムの数はいくつかを明確に書こう

キーボードは何台使うのか、会場のものを借りるのか持ち込むのか、スタンドはどうするのかを明確にしておこう

立ち位置はとても重要！よく考えて変更がないようにしましょう

D.I. を使用したい場合は必ず記入する

マイクの位置と向きは  $\phi$  で示す

持ち込み機材の例  
 スネア・ドラム  
 ドラム・ペダル  
 チャイナ・シンバル (スタンド付き)  
 キーボード  
 キーボード・スタンド  
 特殊例  
 ギター・アンプ  
 ワイヤレス  
 ボーカル・マイク  
 コンガ2台  
 バイオリン (DI 使用)

音響への要望は「ボーカルにリバーブを多めに」などの注文や「ベースをすこく歪ませます」などの報告を書こう  
 照明の要望は「明るく」「暗め」「派手に」など抽象的でOK。テンポや曲調もあるとさらにベスト

コーラス・マイクの有無は必須！忘れないように

## 「外音」と「中音」

普段、学校で練習している場所と、ライブのステージでは大きく環境が違います。それは、ポピュラー・ミュージックが「電気」を使って行われるものだからとも言えますが、その違いを有効に活用するためには、音響スタッフの役割や機材を知ることが第一歩となります。

ライブの場合、ステージ上の演奏の音そのまま客席に届いているわけではありません。各楽器やモニター・スピーカーの音を通して、ステージ上で鳴っている音のことを「中音（な

かおと）」と呼び、ミキサー卓を通してPAスピーカーから客席に向けて出ている音のことを「外音（そとおと）」と呼びます。

サウンド・チェックは、音響スタッフが外音を作るために行われる作業です。バンドがバランスの良い中音を作れていれば、外音を作ること容易になります。逆に、演者は外音を聴くことができません。基本的にはエンジニアに任せることになりますが、当然「自分たちはこういうサウンドを出したいのだ」という気持ちがなければ、音作りは難しくなります。

良い外音を作るには、良い中音を作ることが必要です。良い中音を作るには、各パートが良

いバランスの音作りをすることが必要です。そして、それには個々の音作りが大切です。



▲客席には「外音」しか聴こえません

## 音響スタッフは客席とステージに

音響スタッフは、ミキサー卓を操作するメイン・エンジニアと、ステージ上でサポートするステージ・スタッフがいます。誰がどんな役割をしているのかを知っておくと、リハーサルがスムーズに進み、わからないことがあっても教えてくれるので安心です。



▲客席側でミキサー卓を操作するメイン・エンジニア



▲ステージ・スタッフがリハーサルを進めます

## すべての楽器をミキサーに集める

広い会場では、すべての楽器の音を1度ミキサーに集めます。楽器によってマイクを立てて集音する方法と、DI（ダイレクト・ボックス）ヘシールド・ケーブルをつなげて、「ライン」でミキサー卓へ送る方法があります。



▲ボーカルも声をマイクで集音しているということです



▲ギター・アンプにもマイクを立てます



▲ベースはDIを使ってラインで音を送ります



▲ドラムにはマイクをたくさん使います



▲キーボードはDIを2つ使ってステレオで出力します

## 全員に個別のモニターがある

ステージが広いと、自分の音やお互いの音が聴き取りにくくなるため、メンバー全員に個別のモニター・スピーカーが用意されます。聴きたい音を返してもらって、演奏しやすい環境を作ることができます。良い合奏ができるかは、モニターのバランス作りによります。



▲床に置くタイプのモニター・スピーカー



▲ドラマーにも個別のモニターがあります

# 各パートの サウンド・チェックの流れ

各楽器のセッティングやアンプの音作り、ドラムのチューニングといった演奏の準備が整ったら、音響スタッフの主導で音響エンジニアが各楽器の音色や音量を確認します。一般的にはサウンドの土台となるドラムからスタートしますが、時間がない時やエンジニアによって進め方は様々です。どちらにせよ、演者全員が行うことなので、サウンド・チェックではどんなことを行うのかを知っておきましょう。

サウンド・チェックは、まず基準となる音を作っていくために音響エンジニアが各楽器の音を1つ1つ確認します。楽器の音がミキサーを通してPAスピーカーからちゃんと出るか、基本的な音量や音色はどんな感じなのか…などを確認して、帯域や音の定位などを含めたトータル・バランスを調整します。この作業は、最初にチェックをするバンドでしっかりと行い、2つ目以降のバンドは微調整をしていだけなので、比較的短い時間で進めていきます。

サウンド・チェックは音響スタッフの主導で行われるので、指示に従ってテキパキと進めていけば大丈夫です。音響スタッフが最も確認したいのは、それぞれの「音量」です。サウンド・チェックでは本番と同じ音量で歌ったり、演奏することが基本です。もちろん、音色も含めその場での微調整は可能ですが、短い時間で確認作業と伝達作業を行う必要があるため、やるべきことを理解しておくこととスムーズです。



▲ステージ上に音響スタッフがいる場合もあります

## ドラムの サウンド・チェック

ドラムは楽器の数が多いため、マイクの数も多くになります。その1つ1つについてすべて確認するので、ドラムはサウンド・チェックに最も時間がかかるパートだと言えます。

エンジニアから「バス・ドラムをください」「スネアをください」…と指示があるので、それに従って叩いていきましょう。生楽器であるドラムは楽器同士が共鳴してしまい、音を調整する作業に時間がかかる場合があります。ドラマーの都合ではなく、エンジニアからOK

が出るまで叩き続けてください。注意すべき点は、「本番と同じ音量で叩く」ということです。本番と音量が大きく違うと、バンドのトータル・バランスも崩れてしまいます。

エンジニアから「3点でください」と言われたら、スネアとバス・ドラムとハイハットでリズム・パターンを叩いてくださいという意味です。何か簡単なパターンでいいので、本番と同じ強さで叩きましょう。サウンド・チェックの最後に、「全体で演奏してください」という指示がきます。その時は、すべての楽器を満遍なく叩いて演奏します。実際にライブで演奏する楽曲のパターンを叩くと、本番の感じも伝わって良いかもしれません。

他に、パーカッションをその場で演奏したりする場合は、同様にチェックしておきます。



▲ライブ本番と同じ音量で叩こう

## ベースの サウンド・チェック

大きな会場では、ベースはDIを使って音をミキサーに送ります。アンプにマイクを立てて、DIからのラインの音とミックスさせることもあります。ベース・アンプの音は最終的に客席に届けられるサウンドとは違います。ベース・アンプは、自分の音をモニターするためにあると思ってしまうでしょう。また、DIにシールド・ケーブルを抜き挿しする時は、音響スタッフに必ず一声かけて

からにしてください。

エフェクターを使って音色を変えたり、指弾き、ピック弾き、スラップなど、弾き方を変える場合は、すべて音響エンジニアに確認してもらいます。特に重要なのは音量差なので、普段の練習時から気にかけて整えておきましょう。

弾くフレーズは、実際に演奏するもので構いませんが、できれば4弦から1弦まで、ロー・フレットからハイ・フレットまで満遍なく弾いておくと、エンジニアが音圧差を確認することができます。



▲演奏で使う奏法や音色をすべてチェックします

## ギターの サウンド・チェック

エレキ・ギターは、複数の音色を使って演奏することが多い楽器です。1曲の中でもエフェクターを使って様々な音色を切り替えることもあるでしょう。サウンド・チェックでは、その日の演奏で使う音色をすべて弾いて、エンジニアに確認してもらいます。特に重要なのは音量差です。ギター・ソロやイントロのリフなど、バックアップより大きく聴かせたいセクションの音量差がちゃんとついているか、クリーン・サウンドから歪んだサウンドになった時の音量変化が不自然ではないか…などを、お互いにチェックします。

ギタリストが2人以上いる場合は、エンジニアから「上手（カミテ）ギターください」といったような指示があるので、その指示に従って順番にチェックしていきます。ステー

ジに向かって右側のことを上手、左側を下手（シモテ）と呼びます。まず最初に、バックアップで使う音色を確認するので、本番と同じ音量で弾きましょう。その後、「他に音色ありますか?」と訊かれたら、演奏で使う音色をすべて弾きます。なければ「ありません」と答えます。

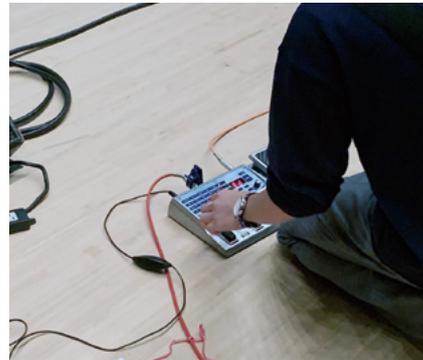
ギター・アンプは、同じメーカーやシリーズ



▲会場のギター・アンプを事前に調べておこう

であっても、仕様が違ったり個体差があったりします。ライブが自校以外で行われる場合には、普段使用しているギター・アンプとは違うものを使わなければならないことがほとんどです。事前に機種を調べておきましょう。

最近は、ギター・アンプで音作りをするよりも、エフェクターでサウンド・メイキングするという考え方が一般的になってきています。



▲ステージ上で準備してきた設定を微調整しよう

## キーボードの サウンド・チェック

キーボードは様々な音色を使います。演奏で複数の音色を使う場合は、ライブ当日の前にある程度しっかりと音量差や音作り、バンクの呼び出し方などを整理しておきましょう。

エンジニアの指示にそって、まずメインで使う音色を弾いて確認してもらいます。他にそのキーボードで使う音色があれば、指示を待ってすべて弾きます。複数台使用する場合は、この工程を使用するキーボードの台数分行います。特に重要なのは、それぞれの音量

差です。バックアップもリード・メロディーも演奏するキーボード・パートは、各音色の音量にわざと変化をつけている場合も多いと思います。サウンド・チェックでは、本番が良いバランスで聴かせられるように、手元のボリュームやポリリューム・ペダルなどを微調整しながら、本番と同じ音量で演奏します。もちろん、鍵盤を押すタッチの強弱も同様です。本番と同じ強さで弾くように心がけましょう。

キーボードは、DIを使って音を「ライン」でミキサーに送ります。基本的には音響スタッフが用意しているシールド・ケーブルを使いますが、念のためシールド・ケーブルを持参しましょう。抜き挿しを自分で行う場合は、

音響スタッフに必ず一声かけてから行うようにしてください。故障の原因になります。



▲ライブで使う音色をすべて確認します

## ボーカルの サウンド・チェック

ボーカルも楽器と同じように、マイクで集音してミキサーへ音を送ることに変わりはありません。低い声、高い声、裏声、張って歌う声、ささやくように歌う声…など、満遍なく出して音量のレベル差を確認してもらいましょう。

大事なことは、マイクと口の距離や角度、声を出した時の音量が本番と同じであることです。本番で歌う楽曲のサビなどを「本気で」

歌うことが一番良いかもしれません。単独で歌ったり、声を出したりするのは少し恥ずかしいかもしれませんが、バンド演奏で最も重要なボーカルのチェックですから、責任感を持ってしっかりと行いましょう。

演出として、ミキサー卓の方で何か声に特殊なエフェクトをかけて欲しい場合は、あらかじめセッティング・シートに記入しておきます。自分でボーカル・エフェクターやマイクを持ち込む場合も同様です。本番でいきなりは厳禁です。



▲楽器+ボーカルの場合は楽器の音量にも注意しよう

# モニター・スピーカー 調整のポイント

サウンド・チェックには、各々のモニター・スピーカーのバランスを調整する作業も含まれます。自分の声や演奏、お互いの音がしっかりと聴こえていることが、ライブ成功のカギとなります。何のためにあるのか、どう活用すれば最適なのか…などをしっかりと把握していることが本番成功への近道となります。自分たちの実力が発揮できるようにモニター・スピーカーについて知っておきましょう。

## モニターを有効活用する

モニター・スピーカーとは、ステージに置いてある黒い箱のことで、演者が自分たちの歌や演奏を聴く（モニターする）ためのものです。演奏をモニターすることは、ステージで演奏する上でとても重要です。学校の備品としてモニター・スピーカーがあるのであれば、普段から積極的に使っていきましょう。

ライブでは、モニター・スピーカーは基本的にメンバー全員に用意されますが、場合によっては2人で1つのスピーカーを使うこともあります。わかりにくい時は、音響スタッフに自分のモニターはどれなのかを確認しましょう。

各パートのチェックが終わると、指示に従って本番で演奏する楽曲を演奏します。これは、音響エンジニアが全体のバランスを確認するため、演者がモニターの加減を確認するためでもあります。ほとんどの場合、限られた短い時間で行わなければならないので、自分のプレイ

に終らし過ぎず、ステージ上の演奏環境を整えることを重視しましょう。

## 音響スタッフとのコミュニケーション

モニターの注文は、ミキサーを操作している音響スタッフとのやりとりで行います。ステージ・スタッフがいる場合も、大きな声ではっきりと要望を伝えるようにしましょう。

大事なのは、どのパートをどうして欲しいのかを具体的に伝えることです。音量を大きく変化させることも微調整もでき、場合によっては音の帯域や硬度を指定して増減を要望することもできます。また、リバーブなどのエフェクトをかけることも基本的には可能です。的確な注文ができるようになるには少し経験が必要ですが、音響スタッフとコミュニケーションを取りながら、ベストな状態を作れることを目指しましょう。やりとりが終わったら「大丈夫です。よろしくお願いします！」の一言を忘れずに。

ポイントは、大前提として「音源や普段練習している環境とは同じようなバランスにはならない」と、「プラスするよりマイナスすることを考える」ことです。モニターは、自分の歌や演奏に支障がないように、音を補ってサポートしてくれるものです。返すものはなるべく少なく、必要最低限なものだけにするように心がけておくと良いでしょう。

そのためには、自分が普段どの楽器をよく聴いてプレイしているのかを理解している必要があります。



▲モニター・スピーカー。通称「コロガシ」

## OK? NG? モニター調整について、よくある疑問&質問

### ●アンプのツマミをいじっても大丈夫?

楽器をセッティングして音量や音色を決めた後にバンドで演奏してみると、ギターやベースのアンプとモニターとのバランスが悪い場合があります。そんな時は演奏中にアンプのツマミをいじって構いません。モニター・スピーカーの場所や向きにも注意しながら、サウンド・チェックの中で演奏しやすい環境を作っていきましょう。

### ●モニター・スピーカーは自分で動かして良い?

モニター・スピーカーの位置や向きを変えるのは、音響スタッフの役割です。ギター・アンプやドラムに立っているマイクなどと同様、音響機材には基本的に触らないようにしましょう。親切心や遠慮もあるかもしれませんが、動かしたい時は自分で動かさず、音響スタッフに声をかけましょう。

### ●モニターにだけエフェクトをかけられるの?

回線数にもよりますが、モニターは基本的にメンバーそれぞれが単独で調整できます。従って、例えば、ボーカリストが自分のモニターの自分の声だけにリバーブなどのエフェクトをかけることも可能です。しかし、ドライな声の方が音程が取りやすく、ダイナミクスもつけやすいので、あまりお勧めしません。

### ●要望はどうやって伝えるの?

全員が一斉にモニターの注文を喋り出したら收拾が付きません。1人ずつ順番に手を上げて要望を伝えましょう。その際、例えば誰かが「ベースを上げてください」という要望をしたら、ベーシストは弾いてあげると判断しやすくなります。もちろん、要望をした方はちょうど良くなったなら「OK」を出しましょう。

# 楽曲演奏時の注意点

モニター・バランスを取った後は、本番で演奏する楽曲を演奏して最終チェックを行います。音響、照明スタッフの確認も兼ねて、楽曲を始めるきっかけから、立ち位置やパフォーマンスなど、すべて本番と同じように行います。すなわち、「お客さんがいない本番」です。ここをしっかりと行っておくことで、演者、スタッフともに素晴らしいステージを作ることができます。

ライブは、文化祭のイベントであっても公式大会やコンテストであっても、観客や審査員がいる以上、「ショー」であることに変わりはありません。人に「観せる（聴かせる）」ことを前提にしているものは、しっかりとした準備が必要です。それは、本番をより良いものにするためだけでなく、怪我や事故の防止のためでもあります。

各楽器のチェックと、それぞれのモニター調整が終わったら、本番で演奏する楽曲を演奏します。イベントの進行などによって様々ですが、1曲をフルサイズ演奏することもあれば、サビだけとか1コーラスだけなど、短めに演奏してモニターを調整し、最後にフルサイズで演奏をするといったパターンもあります。当日になって慌てないように、複数曲演奏する場合はどの楽曲なのかも含め、あらかじめ演奏する場所を決めておきましょう。全体の音量が大きくて、コーラスがあったり、全員が演奏しているセクションが理想なので、やはりサビが妥当かもしれません。

## 本番と同じアレンジで演奏する

最後に1曲まるまる演奏する時間がある場合は、スタッフを交えた「予行演習」でもあります。演者は本番と同じように演奏やパフォーマンスをします。「ほんの一瞬のことだし」「ネタバレしちゃうと嫌だ」「本番でもないのに恥ずかしい」と、サウンド・チェックでは行わずに本番になって突然大声で叫んだり、大きな音を出されたらエンジニアはびっくりしてしまいます。下手をすればスピーカーなどの機材を壊してしまうかもしれません。機材の故障は、修理代の問題だけではなく、その後に出演するバンドが良い環境で演奏できなくなる可能性もあります。

また、ライブに慣れてくればるほどサウンド・チェックの演奏を軽視して、流して演奏したり、あえて他のことをしたり…というケースもよくあります。余裕を持っているという意味では良いことですが、サウンド・チェックの本番の意味を忘れてはいけません。何度も言いま

すが、サウンド・チェックは演者のためだけにやるものではなく、音響スタッフとの本番へ向けた共同で行う確認作業です。

とはいえ、アドリブでギター・ソロを弾いたり、ボーカリストがその場の気持ちの高揚によってフェイクをしたり…と、高度なことができるバンドは、もちろん行って構いません。ただし、その場合も音量差には十分気をつけましょう。

## 本番と同じ音量で演奏する

各楽器のチェックで決めた音量や音色が、バンド全体で演奏した時に「良くない」と感じることがあります。音の定位や音色などによる楽器同士のマスキング現象が起きたりするためです。そんな時は、バンドで演奏している最中であっても、アンプやエフェクターをいじって構いません。もちろん、モニター・スピーカーの調整も可能なので、音響スタッフに要望を出しましょう。全体での演奏時間は最終確認でもあり、「最終調整」の時間でもあります。演奏の手を休めても微調整しましょう。

本番は緊張して力が入ってしまった、ということは誰にでもあることです。頭が真っ白になって歌詞が飛んでしまった、力んでピッキングやスティッキングのコントロールが悪くなった、ということもよくあります。例えば、ドラマーが本番でサウンド・チェックの時より大きな音で叩いてしまっただけで、せっかくエンジニアが整えたバンド・サウンド全体のバランスが崩れてしまいます。しかし、本番と同じように、あるいは普段通りに演奏するなんてなかなかできることはありません。本番を控えめに行うというより、リハーサルを本番のつもりで本気で行っておくように心がけましょう。

よく、本番が終わった後に「モニターの聴こえ方が変わった」「～が聴こえなかった」という意見が出ることがあります。1つには、エンジニアがバンドごとに手動でモニターのレベルを細かく正確に再現することは神業に近いこと



▲演奏のアレンジも音量もパフォーマンスも、すべて本番通りに行うつもりでサウンド・チェックに臨みましょう

なので、ある程度は許容範囲とっておくことも必要です。しかし、近年ではデジタル・ミキサー卓を使用することも多くなってきているので、メモリーされたレベルをボタン1つで完全に再現することができます。その場合、本番でのモニター・バランスの悪さは、自分たちの演奏がサウンド・チェック時と変わっていたことが原因です。次回に向けての反省点の1つとしましょう。

どちらにせよ、本番中に演奏しづらければ、音響スタッフにモニターの要望をして大丈夫です。我慢することはありません。

## 本番と同じステージングをする

「本番と同じ」という意味は、演奏だけではありません。ステージング、パフォーマンスなど、考えているフォーメーションがあれば同じように行っておきましょう。

理由はいくつかありますが、1つはモニターの聴こえ方がステージの立ち位置によって変わるので、それを確認するためです。ギター・ソロを弾きながら、あるいは歌いながらモニター・スピーカーの前に出してしまうパフォーマンスはなるべく避けた方が無難ですが、サウンド・チェックの時に移動してみて、ちゃんとソロが弾けたり歌が歌える位置を確認しておきましょう。本番でいきなりやってしまうと、バンドの音がモニターでできなくて慌てしてしまうかもしれません。また、どこまで出て良いかなど、ステージの使い方も事前に音響スタッフに相談しておきましょう。

本番と同じ動きをするもう1つの理由は「照明」です。ライブ用の照明が会場に設置されている場合に限りませんが、照明スタッフは楽曲や歌詞の世界観に合わせて照明プランを立て、ある程度の準備をしますが、演者の立ち位置や動きに合わせて照明を当てる場所を決めていきます。サウンド・チェックではじっと動かずに演奏していたのに、本番になったらステージを駆け回るようなパフォーマンスをしてしまうと、演奏の表現したいことと照明が合わなくなってしまうたり、ピンスポットを当てる段取りが狂っ



▲照明がある場合は、照明スタッフの確認や予行演習も兼ねています

て光が当たらなくなってしまうこともあります。照明スタッフは、視覚的に自分たちのステージをより効果的にしてくれる味方です。音響スタッフ同様、良いステージを一緒に作りあげる気持ちで臨みましょう。

主な大会では、演奏の規定時間が設けられています。どういう流れで演奏が始まって、どのようなステージングやパフォーマンスをするのか、演奏終了の合図は…という本番と同じ流れの練習を行ってきていれば問題はないはずですが、「ライブ練習」や「大会基準に沿った確認」をしていないと、当日、練習以上の素晴らしい演奏やパフォーマンスはできません。しっかりと目標を置いた練習をしてきているからこそ、サウンド・チェックで確認しておかなければいけないことが明確になり、本番で真の実力が発揮されるのです。

## 本番と同じように片付ける

サウンド・チェックの演奏が終わると、スタッフから「何かありますか?」と、本当の最終確認があります。実際に演奏してみて、例えばギター・アンプの音量などを変えたい場合やモニ

ターの調整をさらにしたい場合は、音響スタッフに報告して直しましょう。他に疑問点や質問、要望などがあれば、同じようにスタッフに伝えてください。

演者、スタッフ共に問題なければ、これでサウンド・チェックは終わりです。「本番よろしくお願いします!」と元気にスタッフへ挨拶をして片付けを始めましょう。挨拶を交わすことで、お互いに本番に向けたモチベーションをアップさせることができます。小さなことですが、とても大切なことです。

ギタリストやベーシストは、アンプの設定を写真に撮ったりメモしておきましょう。本番の時に設定が変わらないように注意してください。また、シールド・ケーブルはアンプのボリュームを必ずゼロにしてから抜いてください。こういったライブでは、すべてのツマミをゼロにする必要はありません。ベーシストやアコースティック・ギターを使用した場合、DIからシールド・ケーブルを抜く時は、必ず音響スタッフの了解を得てからにしてください。キーボーディストやドラマーは、持参した機材を片付けたら、他のものはどうしたら良いか確認しておきましょう。楽器を演奏しないボーカリストであれば、事前に誰の片付けをどう手伝えれば良いのかを決めておきましょう。テキパキとしたスムーズな片付けも、団体行動のうちです。セッティングと同じように、片付ける手順も本番同様に行いましょう。

バンド転換時のステージ上は人や楽器も多く、床はケーブル類がたくさん這っていてとても危険です。怪我のないように慎重に行動しましょう。また、アンプやドラム・セットなどに設置してある音響用のマイク・スタンドに当たってしまい、マイクの位置がズレてしまったら、自分でこっそり直したりせず、必ず音響スタッフに声をかけてください。



▲本番で前に出るなら、本番通りに行って確認します



▲最終的な微調整があれば、音響スタッフに報告します

録音  
する

作曲  
する

アレンジ  
する

MV  
を制作する

配信  
する

初めての

THE FIRST STEP OF DESK TOP MUSIC

# デスクトップ・ミュージック

パソコンを使った音楽制作という話を耳にしたことはありませんか。皆さんが普段耳にするポピュラー・ミュージックはもちろんのこと、どんなに激しいロックバンドでも、最近はパソコンを使わずに音楽制作をすることはありません。デスクトップ・ミュージックはDTMと訳され、机の上、または膝の上で、音楽制作ができるシステムの総称です。スマホやタブレットで始めることもできますので、軽音楽部員の皆さんもこの機会に始めてみませんか？（文：三谷佳之）

パソコンと聞くと難しいと感じるかもしれませんが、スマホはもはや電話機ではなく、小型高性能パソコンですから難しく考える必要はありません。新しいおもちゃだと考えて、「習うより慣れる」の精神でとにかくやってみること、始めてみるのが大事です。パソコンを使った音楽制作の利点はたくさんありますが、軽音楽部員にとっては大きく5つが挙げられます。

1つは自分たちの演奏を録音することで客観的な評価ができること。2つめはオリジナル曲を作曲する作業が楽になること。3つめは作成したオリジナル曲のアレンジが容易になること。4つめはMV（ミュージックビデオ）の制作まで

できること。これはライブ・ステージのパフォーマンスにも繋がったり、楽曲の音楽性をメンバーで確認することにもなります。5つめは音楽や映像の配信が容易にできることです。昔と違い、制作したり、演奏した楽曲はライブで目の前の観客に対して披露するだけでなく、いろんな形式で発表することができるようになりました。もちろん、スマホだけでできるものもあれば、大掛かりなシステムを組まないと完成度の高いものがないこともあります。まずは小さく始めてみることで。以下、軽音楽部員に特に有効と思われる3つの利点を紹介します。

録音  
する

バンドのメンバーと演奏している最中に自分の演奏を客観的に観察する…つまり、観客の視点で見るとは聞き直すことはできません。そこで威力を発揮するのがデスクトップ・ミュージックを使ったレコーディング（録音）や映像の録画です。自分の演奏を後で聞き直すことはプロのミュージシャンなら当たり前に行っていることです。メンバー全員の演奏をそれぞれのマイクロフォンで集音して、録音することをパラレル・レコーディングと言います。個人の演奏パートだけを聞いたり、サウンドを編集したり、演奏しなおすことができるのが特徴ですが、さすがにそのレベルの録音をするとするとスマホやタブレットでは難しいので、本格的なレコーディングはパソコンを使ったDTMのシステムが組めるようになってからでよいと思います。しかし、スマホやタブレットの録音機能を使ったレコーディングは普段から行うようにしましょう。自分の演奏を客観的に聞くようにするだけで個人の演奏スキルやバンドのアンサンブルは格段に向上します。その際、本体だけで録音すると音が割れる…歪んで聞こえにくくなる場合があります。特にドラムやエレキギターの音は日常生活の音量と比較するととても大きいので、そのまま録音すると歪んでしま





# DTMの世界に触れてみよう！



タブレットを使った授業が当たり前となっている現代、軽音楽部で音楽活動をしている皆さんの中には、DTMに興味がある人も多いのではないのでしょうか。でも、ハードルが高い、難しそう…と二の足を踏んでいる人もたくさんいるでしょう。独創的な音楽制作と演奏を可能にする製品を手がけ、教育機関による音楽学習や自己表現を応援する Ableton (エイブルトン) の力を借りて、DTMの世界に触れてみましょう！

## 「音」を作る Synthesize

軽音楽部で楽器を演奏する時、皆さんは何を大事にしていますか？ フレーズや歌詞だったり、技術的なこと、オリジナル曲の完成度…など、様々なことを気にしていることと思います。しかし、歌唱や楽器演奏、楽曲制作の前に、自己表現としての「音」についてどれだけ興味を持っているのでしょうか。

皆さんが普段聴いている楽曲には、いろいろな「音」が入っています。歌、ギター、ドラム…。その楽器たちが奏でた1つひとつがすべて「音」であって、それぞれに音作り(サウンド・メイク)がなされています。軽音楽部に大事なオリジナルティやクリエイティビティは、「音(音色)」作りにも当てはまります。楽曲はフレーズの集合体である前に「音」の集合体です。なぜなら、「音楽」だからです。

今や、シンセサイザーという楽器は魔法の箱であり、本体には最初から数百という音がプリセットされていて、ツマミや液晶画面のフェーダーを動かせばどんどん音が変わっていきます。しかし、好みの音を作り出すことは簡単ではありません。まずは、音作りの楽しさを実感することから始めてみましょう。

Ableton は、ブラウザー上で操作できるインタラクティブなウェブ・サイト、「Learning Synths (ラーニング・シンセ)」を公開しています。サイトでは、シンセサイザーを構成する基本要素を楽しく解説し、広範にわたる典型的なシンセサイザー・サウンドの作り方を順を追って説明しています。携帯電話、タブレット、コンピューターの他、最新のウェブ・ブラウザーの使用とインターネット接続が可能な端末であれば、誰でも使うことができます。入門編としてはもってこいでしょう。

音楽とは面白いもので、偶然にできた「音」からフレーズや楽曲のイメージがインスピレーションされることもあります。きっと、様々な刺激をもらえるはずですよ。

## 音を「音楽」にする Learn Music

オリジナル曲を作るには、相当な音楽知識がないといけないと思っている人も多いと思いますが、自由な発想で、自由に音楽を生み出せるところが、ポピュラー・ミュージックの最も良いところですよ。変に音楽理論や作曲の方法論に捉われず、まずは「音楽を作る」楽しさを知って欲しいと思います。

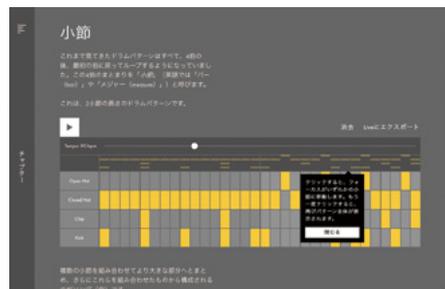
Ableton が Learning Synths に先駆けて公開しているウェブ・サイト、「Learning Music (ラーニング・ミュージック)」では、ビート、メロディー、ハーモニー、ベース・ライン、楽曲構造など、作曲の基礎について全般的に学べる内容になっているので、遊び感覚で音楽を作っていくことができます。 Learning

Synthsと同じように、ブラウザー内だけでいろいろと学べてしまうので、楽器があまり弾けない、音楽理論はちょっと苦手、という人も簡単に楽しく音楽制作の基礎が身についていくでしょう。

気に入ったテイクができれば、オリジナル曲のアイデアとしてバンド・メンバーに聞かせたり、今後の創作活動のためにストックしておくても良いかもしれませんね。

## 音楽を「楽曲」にする Make Music

「音」のことを学び、「楽曲制作」について学んだら、次は実際に「楽曲」を完成させていきましょう。Abletonには「Live (ライブ)」という音楽ソフトウェアがあります。シンセサイザーで作ったテイクはもちろん、歌やギターなども録音することができるので、オリジナル曲のファースト・アイデアをメンバーに伝える「デモ音源」制作から、バンドで作った楽曲をレコーディン



▲ Learning Music の画面。楽曲制作がわかりやすい



▲ Live 11 Intro の画面



▲ 「音」の成り立ちを視覚的に学ぶことができる Learning Synths のサイト

グすることも可能です。

Live はソフトウェアなので、起動させるためのパソコンが必要となります。学校に軽音楽部で共有のパソコンがあれば、そこにインストールしておいても良いですね。Live には、条件さえ整っていれば、軽音楽部なら無料で導入できる「Intro エディション」があります。Intro エディションは、主に 18 歳までの生徒へ音楽を教えている学校、慈善活動、クラブ活動を対象にした無料ライセンスです。無料のライセンスとはいっても、Live の Intro エディションに含まれる全機能を使用することができます。制約や使用期限はありません。また、一部制限はありますが、ユーザー・インターフェイスは現行のソフトウェア、Live 11 と同じです。

利用は、教育機関情報や申請者の情報、使用するパソコンの台数などをウェブ上から申請して、確認してもらうだけです。顧問の先生に相談してみよう！



詳しくはこちら  
Ableton for the Classroom  
<https://bit.ly/3yXZjz7>

## DTM を学ぶ Desktop Music

音に関することや DTM に興味を持ってきたけど、パソコンの操作や実際の楽曲制作に不安があるという人は、Ableton が取り組んでいることを調べたり、開催しているワークショップに参加してみてもいいでしょう。

「Ableton for the Classroom」では、Live や音楽作成に必要なすべてを指先 1 つで操作できる「Push」を使った授業など、学校教育への取り組みを積極的にこなしています。



▲進化したハードウェア楽器「Push」



▲音楽制作を通して「自分を知る」授業の様子

## 全国にはこんな学校もあるぞ！

### 福島県立光南高等学校 テクノアートシンセサイザー部



▲内蔵音源を用いた合奏スタイルの活動をしています

平成 8 年に校名変更と学科改編に伴い創設され、開校当時からパソコンを中心に、ミキサーや音響機材を用いて、音色をミックスしたシンセ・サウンドで楽曲制作や演奏活動を行っています。授業では、フリーソフトのミューズスコアでステップ入力を、ガレージバンドでリアルタイム入力を学び、卒業制作はロジックXプロなどを用いて完成させています。

顧問：金澤勝敏・橋本奏葉・小林千佳子

### 千葉萌陽高等学校 シンセサイザーオーケストラ部



▲シンセサイザーオーケストラ部の練習風景

昭和 58 年にギタークラブからシンセサイザー部に変更になりました。シンセサイザーは、いろいろな音色の出るキーボードと考え、様々なジャンル、時代の楽曲を楽しんで演奏しようというスタンスで活動しています。最初はクラシックにこだわっていましたが、今ではポップスから演歌、ジャズ、タンゴなど思いつきで何でもやるアンサンブルになっています。

顧問：井上園彦

### Ableton for the Classroom

Ableton は、音楽制作の楽しさを通じて音楽に対する生徒の学習意欲を高める活動をしています。本社はクラシック音楽の本場ドイツのベルリンにあり、エンターテインメントの街、ロサンゼルスにもオフィスがあります。欧米では音楽と IT による新しい教育が進んでいます。日本でも、軽音楽部の活動が教育関係者の間で見直されてきています。

Ableton for the Classroom は、生徒たちの自分自身で音楽が作れる意欲を育て、音楽制作を通じた自己表現の魅力を知ってもらうため、必要な機材や、そのまま使える教材（日本語）など、様々な面から教育現場をサポートしています。



▲音楽授業計画、もしくは課外授業の一環として、生徒の自信や自尊心、やる気を促すことができます  
Photo by Martin Holtkamp

KEIONGAKURUSEMINAR

**軽音学ぶセミナー** 8/26 (金) 10:00~16:00 宝塚大学

作曲 / アレンジ / DTM / レコーディングが学べる

初めてのオリジナル楽曲制作 / アレンジ講座  
iPhone/iPad で始める GarageBand 入門講座  
パソコンを使った 初歩の DTM (Desk Top Music) 講座  
プロの演奏が録音できる レコーディング初級講座

シンセサイザーや DTM、オリジナル楽曲制作についての無料の講習会を開催します。Ableton も Learning Synths を使った講座を用意しています。ぜひ体験&体感しに来てください！

日時：令和4年8月26日（金）10:00～16:00  
参加費：無料  
会場：宝塚大学 東京メディア芸術学部  
東京都新宿区西新宿 7 丁目 11-1  
主催：特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会  
公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団

詳しくはこちら



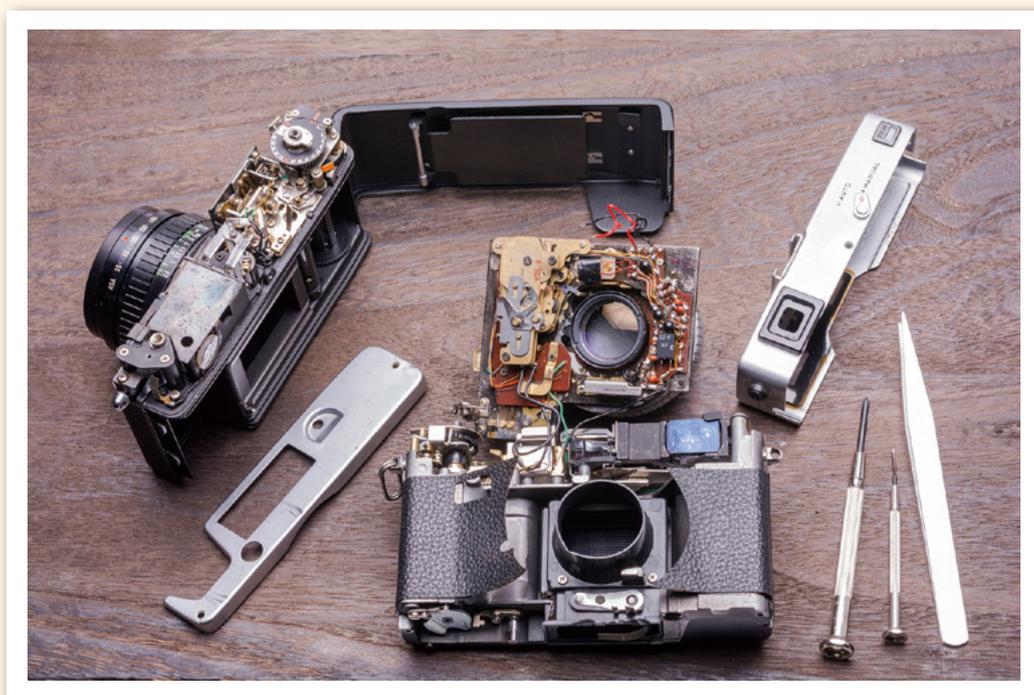
Learning Synths  
<https://bit.ly/3AFP8As>



Learning Music  
<https://bit.ly/3ABgAzf>

# ロックの 解体新書

ロックという音楽が生まれてから既に 70 年近くの月日が流れ、今でも多くの人から愛され続けている名曲がたくさんあります。皆さんが普段聴いている楽曲の中にも、何十年後かにはスタンダードとなって、その時代の人たちに愛されていく楽曲があるかもしれません。名曲と言われる楽曲は歌詞が良い、メロディーが良い、アレンジが良い、演奏がうまいといったことだけではなく、それらを表現するプレイヤーの音楽的センスによってしっかりと絡み合っています。楽曲を「解体」してみれば、そこには必ず名曲が「名曲」となる秘密が隠されているはずです。ぜひ例題曲のコピーをする時やオリジナル曲を作る時の参考にしてください。





# ロックの解体新書 ボーカル編

文・佐藤智恵

## TETORA 今日くらいは

～感情がストレートに伝わる歌～



関西出身の3ピース・ガールズ・ロックバンドのTETORAは、2019年にリリースされた1stアルバム『教室の一角より』が、「タワレコメニアワード2019」で1位を獲得した。その中に収録されているこの楽曲は、WEB限定動画で話題となり、彼女たちの代表曲となった。ボーカル&ギターの上野羽有音による日常を切り取った歌詞やシンプルなメロディーが、サウンドもアレンジも余計なことはせずに歌に寄り添っていくような演奏と融合し、感情そのものがストレートに伝わる歌になっている。

### 「熱い」中での「冷静さ」・・・・・・・・・・

この楽曲のメロディーは、低いラ（ピアノのA3）から高いファ（F5）を使っていて、2オクターブ近くある。しかし、ほとんどがF4のファからC5のドに集中していて、音程の動きが激しくないフレーズが多い。

音程の高低差が狭いメロディーは、ダイナミクスが目立ちにくく歌詞とピッチ（音高）をなぞっているだけの単調な歌になりがちだが、この楽曲では「歌うトーン」と「喋るトーン」を混在させたトーン・コントラストでメリハリをつけている。例えば、サビの「もうどっかに行かないでよって～」は、「もうどっかには」では歌い、「行かないでよって」では喋りとなり、1フレーズ内で2つの表現が存在している。そして、それに伴ったトーン変化が生じることで、「歌う」と「喋る」がお互いを引き立て合い、抑揚のある表現となっている。

歌い方は、楽曲が進むにつれ、気分の高揚と共にメロディーの「フェイク」と声のかすれ度合いが増し、感情の表れがパワーアップしている。上野羽有音は、どの楽曲でもダイレクトに熱く伝えるボーカリストだが、熱量だけの独りよがりな歌にならず、共感を呼ぶ歌になっているのは、正確なピッチやテンポ感の維持といった基礎の部分がないがしろにしているから。どのフェイク・フレーズも音符で表記でき、演奏のリズ

ムとずれることなく「歌う」と「喋る」がスムーズに行き来していることから、冷静な面を残しつつ熱く歌っているのが分かる（譜例）。感情と理性のバランスが上手く保たれているからこそ、伝わる歌になるのだ。



譜例 ラスト回のサビのフェイク・メロディー。ピッチもリズムもズレがない

### 音の記憶力・・・・・・・・・・

1コーラス目のAメロは、ギターが奏でる和音がなく、リズム隊と呼ばれるドラムとベースのみの演奏なのだが、その中での歌にピッチのずれがない。これは、和音の響きを感じ取る「コード感」と、和音と和音がつながった「コード進行」の響きが理解できているからだろう。

ギターの歪んだ音からはコード感がわかりにくいので、ピッチはベースから掴むことが多いが、和音としての理解があると当然正確さは増す。ギターも弾くボーカリストで、作曲をすることも大きな理由の1つだろう。歌う時は、何気なくではなく、常に和音の響きを意識しながらバンドの出す音に集中して、「音の記憶力」を鍛えていこう。



▲ボーカル&ギターならではのピッチとリズムの良さ

### 参考にするなら、この曲もオススメ！



#### 中島みゆき ファイト！

シンガー・ソング・ライター、中島みゆきの1983年にリリースされた10thアルバム『予感』の収録曲。CM曲に起用され話題となり1994年にシングル・カットされた。多くのアーティストがカバーする名曲。ライブでの魂のボーカルは圧巻。



#### THE BLUE HEARTS TRAIN-TRAIN

パンク・バンド、ザ・ブルーハーツの5thシングル。ドラマの主題歌に起用され小学校の音楽教科書にも掲載された。飾らずに言葉をハッキリと歌う甲本ヒロトのボーカルは、ライブでの過激なパフォーマンスでもぶれない。1988年リリース。



# ロックの解体新書 ギター編

文・岩尾 徹

## ポルカドットステイングレイ ICHIDAIJI

～キレッキレなカッティングとエモいソロ～



ポルカドットステイングレイは、独特のメロディーと歌詞、突き刺さるギター・サウンドが持ち味のバンドだ。2016年にYouTubeで発表した「テレキャスター・ストライプ」のミュージック・ビデオがきっかけとなり、その名を全国区へと広げた。「ICHIDAIJI」は、2018年公開の映画「わたしに××しなさい！」の書き下ろし主題歌で、疾走感満載ながら、ある意味クールなカッティングと躍動感あふれるエモいギター・ソロの対比が印象的な楽曲である。

### 歌との絡みが絶妙なカッティング

楽曲全般を通して、ギターがセクションごとにバックアップのアプローチの仕方を変え、抑揚をコントロールすることでリスナーを最後まで飽きさせない流れを作っている。

Aメロは、シンプルなフレーズの繰り返しで、メロディー・ラインだけで考えると非常にゆったりとした印象を受ける。そこへ、ギターが16分音符の単音と休符を組み合わせた、パターン化したフレーズをミュートしながら弾く…という小気味良いカッティングをしているおかげで、タイトで疾走感がある印象になっている（譜例）。

キャッチーな歌のメロディーが印象的なサビでは、ギターはコード・カッティングが主体の、音域的には高い音中心でアプローチしている。その結果、楽曲のイメージに合わないヘヴィーさを省くことができ、フレーズにも軽快感が出ているのだ。また、弾いている和音の一番高い音

(トップ・ノート)を、コードが変わっても同じラインのフレーズで動かし、まるでサビのメロディーに呼応するかのように絡ませることで、サビをよりポップなものに仕上げている。

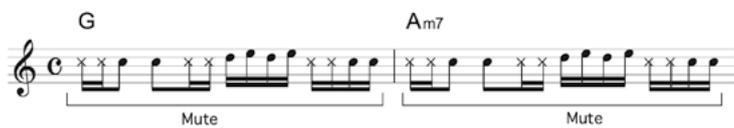
### ポップな楽曲にロック魂を注入する

歌のセクションはポップで爽やかなのだが、ギター・ソロに入るとリズムもハーフになってヘヴィーな印象だ。イントロのテーマを弾いている音色は、ナチュラルな軽い歪みで軽快感があるのだが、ソロにおいてはギター本来の音を生かしつつも、野太いヘヴィーな音色だ。弾いているフレーズもブルース・フィーリング溢れるアプローチで、チョーキングを多用したとてもエモーショナルなソロになっている。

このように、イントロからのポップな流れの中に真逆なブルース・ロック全開のセクションを挟むことで、リスナーはそれまでの流れを一度リセットして、その後の展開を新たな気持ちで臨むことができるのだ。バンドで演奏する際は、イントロのテーマを弾いている軽い歪みのギターの音色をベースに、ソロではギターのアウトプットを増幅できる、オーバードライブやブースター系のエフェクターをさらにONにするのも1つの方法だろう。



▲ソロをブーストする代表的な機種。Ibanez TS-9 (左)、MXR micro amp (右)



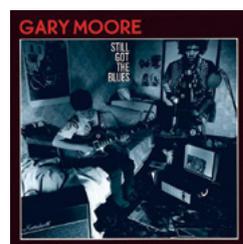
譜例 このフレーズをベースに若干歌い回しに変化をつけている

### 参考にするなら、この曲もオススメ！



#### 山下達郎 SPARKLE

日本を代表するシンガー・ソング・ライター、山下達郎の1982年にリリースされた6thアルバム『FOR YOU』に収録。楽曲のイメージを構築しているイントロのコード・カッティングはフェンダー・テレキャスター特有のサウンドでキレッキレだ！



#### Gary Moore Oh Pretty Woman

イギリスのギタリスト、ゲイリー・ムーアが自身のルーツであるブルースを探求したアルバム『Still Got The Blues』に収録。ギブソン・レスポールの音色を最大限に生かしたロック色の強いブルージーでエモいソロが印象的。1990年リリース。



文・山田潤一

# Saucy Dog シンデレラボーイ

～堅実さと華やかさを持つベース・フレーズ～



「シンデレラボーイ」は、3ピースのロック・バンド、Saucy Dogの2021年にリリースされた3枚目のミニ・アルバム『レイジーサンデー』に収録されている、バンドを代表する楽曲だ。ベース・ラインは、3ピース・バンドの音の少なさを補うようなメロディアスなラインと、バンドを支えるボトム感という、華やかさと堅実さの両方を兼ね備えたものになっている。

## 音域の高低差で楽曲の流れを作る

この楽曲のベースは、音域の使いわけが上手く行われている。1コーラス目のAメロでは、前半はシンプルだが、後半は裏メロのような細かいフレーズを弾いている。この時、9フレットより上のポジションの高い音域を使用することで、途中から入っても他の楽器と自然に馴染むことができているのだ。

Bメロでは、コード進行がF#m7→E→Dと展開していて、それに合わせてベースも徐々に低い音域に変わっていくことで、サビに向けて徐々に安定感を作り出し、サビでは低い音域を使ってフレーズを構成することにより、ボトムをしっかりと支えている。バンドとしての一体感が強固になり、勢いのあるアレンジだ。また、2コーラス目からはドラムもしっかりとビートを出しているため、それに合わせてベースも低い音域でフレーズングしている。これにより、2コーラ



▲メロディアスに弾きたい時はフレーズを歌いながら弾く

ス目以降はよりバンド感溢れるアレンジに感じられる。

ス目以降はよりバンド感溢れるアレンジに感じられる。

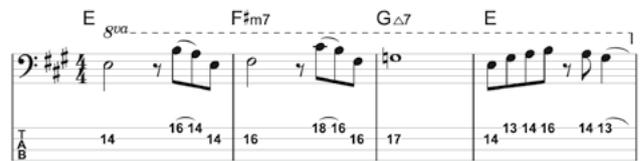
このように、この楽曲のベースは音域をうまく使い分けて楽曲のアレンジに大きく影響を与えているのだ。

## ノン・コード・トーンの音使い

ベースが裏メロを弾いている時には、「ノン・コード・トーン」と呼ばれる、和音の構成音（コード・トーン）に含まれていない音が使われている。ベース・ラインは、コード・トーンに合わせてフレーズを弾くことが多いが、ここではノン・コード・トーンの「4度」の音を使用することで、フレーズを印象的なものになっている。

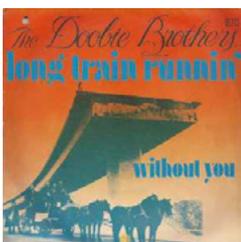
例えば、1コーラス目のAメロの5小節目からベースはメロディアスなフレーズを弾いているが、5小節目からのコードはE→F#m7→Gm7→Eと進行しているのに対し、コードEの時には1弦14フレットのA(ラ)、F#m7の時には1弦16フレットのB(シ)の音を使用している。これが、コードに対して4度の音になっているのだ(譜例)。

この4度の音を入れることで、この部分がメロディアスな印象になっているのだが、コードが変わっても似たようなフレーズを繰り返すことでリフレイン効果も生まれ、裏メロらしい印象的なフレーズになっていることもポイントだ。バンド・アレンジの参考になるだろう。



譜例 コードの4度の音を意識して弾いてみよう

## 参考にするなら、この曲もオススメ!



### ハナレグミ 発光帯

SUPER BUTTER DOGのボーカル、永積タカシのソロ・プロジェクトであるハナレグミの楽曲。しっかりとボトムを支えつつ時々で出てくるメロディアスなベース・ラインが楽曲を彩る。まさに「ベース玄人」なプレイは必聴だ。2021年リリース。



### The Doobie Brothers Long Train Runnin'

アメリカのバンド、ドゥービー・ブラザーズが1973年にリリースした大ヒット曲。コードGm7の有名なギター・リフにベースは4度のC(ド)音を入れてフレーズを構成している。通常のマイナー・セブンスとは少し違った響きが胸に迫る。



## ロックの解体新書 ドラム編

文・辻 伸介

# ストレイテナー スパイラル

～隠された「夏」感はドラムにもある～



2004年のメジャー・デビュー以降、日本の音楽シーンを先導し続けるバンド、ストレイテナーが2019年10月にリリースした4thミニ・アルバム『Blank Map』に収録されているこの楽曲は、同年3月に先行配信リリースされている。ボーカル&ギターのホリエアツシが弾き語って、他の楽器陣が肉付けをしていく楽曲制作方法は、仲が良く、音楽的に長けたメンバーが揃っているからこそそのやり方だが、この楽曲も全員で同じテーマを共有し、形にしていったことがよくわかる。歌詞にはないが、アレンジの端々から感じる「夏」は、ドラムのパターンや演奏にも表れている。

### 「3：2」のラテン系リズム・・・・・・・・・・・・・・・・

アコースティック・ギターとピアノで始まるイントロや、歌い出しの「もう少しで海に出るだろう 夕波が輝いてるだろう～」という歌詞、細かいディレイがかかったエレキ・ギターなどからは、それ以降、歌詞の中に季節や情景描写は出てこないが、完全に夏をイメージさせる。そして、夏を感じさせるのは、この楽曲のリズムによるところも大きい。

この楽曲のリズムは、もちろんいわゆる8ビートなのだが、16分音符を3つずつくっつけた「半拍半」アクセントの前半部と、8分音符2つで解決する後半部で構成された1小節のリズムが根底に流れている。これは、ラテン系リズムの1つ、キューバ音楽の「クラベ」をロック・バージョンに変換したものだ。前半が3つ、後半が2つのアクセントであるため「3：2（スリー・ツー）・クラベ」と呼ばれている。カリブ海の島、キューバの暑い夏がリズム・パターンから感じられる。

アコースティック・ギターが出すこの3：2リズムに、ドラムは、スネアをスリッパさせて合わせている（譜例）。3：2は、少し「留まる」感じがするリズムなのだが、そこがAメロなどの歌詞の「何度も挫折ようになった」イメージと重なる。まるで、スネアでブレーキをかけて

いるように感じるが、その証拠にBメロでは1度ハーフタイムのリズムで落ち着かせてから、後半はサビへ向かってスネアが2拍4拍のバック・ビートになる。しかも、サビでは3：2のニュアンスを薄く残しているところが大きなポイントだ。



譜例 バス・ドラムとスネアのアクセントで「3：2」クラベになっている

### 夏に合うドラム・サウンド・・・・・・・・・・・・・・・・

夏を感じてしまう要因は、楽器陣のサウンドにもある。アコースティック・ギターやピアノが奏でる「メジャー・セブンス」コードの響きは、爽やかさ以外の何者でもない。さらに、キラキラしたさざなみのようなディレイ・エフェクトをかけたギターに、前向きな決意をする主人公の物語…。やはり、ドラムもカラッとした音作りが似合うだろう。

この楽曲のドラムは、無理にサウンド・メイクをするのではなく、心地良いナチュラルなサウンドで聴いていて嫌味がない。特に、スネア・ドラムはしっかりと低音も出ている。おそらく、プラス製のスネアに少し厚めのヘッドを張っているのだろう。



▲中低音が心地良いプラス製のスネア・ドラム

### 参考にするなら、この曲もオススメ！



#### Manuela Run TOTO

1978年にリリースされた、アメリカの若手スタジオ・ミュージシャンたちで結成されたバンド、トトのデビュー・アルバム『TOTO』に収録。3：2クラベを使ったリフやラテン・グルーヴをうまく極上のポップスに昇華させている。



#### SUMMER TIME TUBE

ラテンのリズムを取り入れた楽曲で1980年代から日本の夏の定番となったバンド、チューブの57thシングル。ラテン・リズムを元にしたドラムとベースに、ディレイがかかったギターとナチュラルなドラム・サウンドがよく似合う。2015年リリース。



## ロックの解体新書 キーボード編

文・鳥居克成

# Cody・Lee (李) 異星人と熱帯夜

～さり気ないキーボードの音色が光るアレンジ～



「異星人と熱帯夜」は、2022年にメジャー・デビューした日本の5人組バンド、Cody・Lee (李) の1stアルバム「心拍数とラヴレター、それと優しさ」に収録されている楽曲だ。2021年に公開された映画「サマーフィルムにのって」の主題歌でもある。叙情的かつ、不思議な歌詞に透明感のあるツイン・ボーカルがマッチして、1970年代風の懐かしいアレンジのサウンドでありながら、歪んだギターが絡み合い、現代の新しいサウンドとの融合を感じさせる。

### エレクトリック・ピアノの音作り・・・・・・・・

この楽曲のメインで使われているエレクトリック・ピアノ（以下、エレピ）の音色は、「フェンダー・ローズ・ピアノ」だ。1970年代前半からジャズ、R&B、ソウルといったジャンルの音楽で好んで使われていた代表的なエレピである。

この楽曲では、その音色にエフェクターとして「フェイザー」と「トレモロ」が使用されている。この2つはどちらも「Modulation (変調)」系のエフェクターだが、エレピにたびたび使用される。フェイザーは、原音と位相をずらした音色を混ぜることで揺れたような音色になり、トレモロは、音を左右に揺らすエフェクトだ。

この楽曲では、フェイザーのRATE (周期のスピード) はBPMに合わせ、DEPTH (エフェクト音の深さ) は深すぎずさりげない程度にかかっている。トレモロは、4分音符に合わせて左右に振られるスピードで音作りされているため、基本的に全音符で演奏されているが、特に歌い出し部分の歌とエレピだけのセクションでも、リズムを感じ取れる効果がある。

最初のAメロは、ドラムとエレピだけのアレンジで、その部分は裏のリズムも入っている。裏拍で弾くことで、揺れのタイミングも4分音符とずれて、逆にスピード感が増している (譜例)。



譜例 Aメロでのエレクトリック・ピアノのパターン

### シンセサイザーが表現する楽曲の世界観・・・・・・・・

この楽曲では、他に様々なシンセサイザーの音色が演奏されている。一番の特徴は、どのシンセサイザーの音色もエレピ同様に、揺れる音色であることだ。サビでは、周期の大きいシュワシュワした音色で演奏することで、ドラムとベースのタイトなリズム隊に対して、よりスピード感のある効果を演出している。

また、1コーラス目サビ前のシンセサイザーは、3連符でトレモロされている。この音色は、それまでBPMに合わせた揺れの音色に対して「1拍3連符」にすることで、次への期待感を高揚させる効果が出ている。さり気ない音色へのこだわりが、楽曲の世界を作っているのだ。

さらに、シンセサイザーの音色ではないが、随所に出てくるフルートの音色も「ディレイ」エフェクトがかけられている。それが、この楽曲の歌詞の世界観を示す良いアクセントになっている。



▲音色にエフェクトをかけて、楽曲に合った音作りをしよう

### 参考にするなら、この曲もオススメ!



#### Boz Scaggs Harbor Lights

A.O.R.の先駆者であるアメリカのアーティスト、ボズ・スカッグスが1976年にリリースしたアルバム『Silk Degrees』に収録。トレモロがかかったエレクトリック・ピアノでルバート演奏される幻想的なイントロが印象的なミディアム・バラード。



#### 細野晴臣 Exotica Lullaby

ニューオリンズの音楽に刺激され、カリブ海のスタイルまでも網羅したベーシスト&プロデューサー、細野晴臣の3rdアルバム『泰安洋行』に収録。エンディングのシンセサイザーがアルバムの終演にふさわしい。1976年リリース。

楽器リペア／メンテナンス 豊崎貴志さん (toyo guitar)

## 仕事は周りの人との信頼関係が大切です

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょうか。今回はギターの修理やメンテナンスをされている豊崎貴志さんに今の仕事に就いたキッカケや大切にしていること、やり甲斐を伺いました。

### ー お仕事について教えてください

**豊崎**：僕の仕事はアーティスト（ミュージシャン）の楽器をお預かりしたり、音楽業界の様々な関係者から依頼を受けて、自身の工房にて楽器の修理やメンテナンスを行うことです。プロ、アマチュアを問わず、日頃から様々なミュージシャンの楽器を手がけています。時にはオーダーメイドの楽器製作の依頼もあり、修理業務をこなしながら、お客様の楽器製作も行っています。

### ー 高校卒業以降、どういう経緯で今のお仕事に就いたのですか？

**豊崎**：キッカケは高校時代なのですが、ギターを弾き始めると同時に「改造」と呼ばれる分野に興味を湧き、ギター雑誌のカスタマイズ紹介やピックアップによる音の違いのコーナーなど、雑誌のそういったメカニクなページをよく読んでいました。そして、読むだけでは飽き足らず、素人ながら雑誌に倣って、いろいろと挑戦していた高校生だったんです。

軽音楽部に所属しながらそんな高校生活を送り、いざ自分の進路について考えたところ、イーエスピー学園のギタークラフト科への入学を決めました。改造だけでなく、イチからギターを作り上げるという未知の領域に魅力を感じたのが大きな理由です。ギター製作やリペアを2年間学び、卒業後は同校のギタークラフト科の講師として、8年間勤めていました。その中で築けた交友関係が今のお客様

であったり、取引のある楽器店さんにつながっています。「独立」とか「開業」という言葉にするとハードルの高い感じが出てしまいますが、友人や知人からの依頼をこなしていくうちに「これなら商売になりそうだな…」という気持ちや状況に切り替わっていったような感じです。30歳手前でギタークラフト科の講師を退職し、独立することを決めました。

### ー お仕事の楽しいところを教えてください

**豊崎**：楽器店さんのような店舗営業ではないので、個人工房には、いつでもどこでも自由に動き回れる利点があります。依頼があれば、レコーディングやリハーサルの現場に直接行って、楽器を預かったり、その場で修理を行うこともあります。楽曲制作やコンサートが作られるまでの過程を実際に見られるのは大きな刺激になりますし、その一端を担っていると思うと、プレッシャーもありますが、ミュージシャン本人やスタッフの方に喜んでもらえた時には、何にも替えがたい達成感があります。その現場で有名人に会えると、さらに嬉しいですね！（現場ではクールを装っていますが、家に帰ると妻に自慢します／笑）。

### ー お仕事の大変なところを教えてください

**豊崎**：お客様の大切な楽器なので、とにかく失敗が許されないというプレッシャーが常なのしかかります。失敗しないための準備、対策、実験など、今でもいろいろと勉強しながら進

めることがあります。一体、いつ本体に触るんだ…という場面もしばしばあります（笑）。

細かい話になってしまいますが、ギターには修理箇所以外であっても、どうしても起こり得るようなトラブルが多数存在します。そのことを事前に説明して、お客様にご理解いただく必要があり、事後のトラブル／クレームを未然に防ぐことが大切です。

### ー お仕事を継続していく上で、大切にしていることは何ですか？

**豊崎**：不測のトラブルが起こった時に嘘をついたり、ごまかさないと、誰かのせいにならないことだと思います。仕事は周りの人との信頼関係が大切なので、正直に話して、謝るべき時には素直に謝る、誠意を持ってその対応にあたるのが一番だと考えています。「お客様が安心して頼める」「次もお願いしたい」…そう思ってもらえるような努力は日々怠らず、未だに勉強中の身です。経験は積みつつも、プライドは積み上げない。頑固オヤジのラーメン店みたいな工房にはならないように心がけています（笑）。

### ー このお仕事は、どんな人にオススメですか？

**豊崎**：楽器は、とても派手なものだと思いますが、作り上げるまでにはコツコツと地味で、地道な作業の連続です。最初から最後まで、そうかもしれません。修理も当然同じことが言えますが、そんな地味で地道な作業に、とことん向き合える凝り性な人、没頭できてしまうような人にオススメだと思います。地道にやった分だけ、仕上がった時の感動は大きいですし、そこに快感が得られます。さらに、その感動をお客様と共有できる楽しみもあるなど、モノづくりや職人の世界には、そんな魅力やマニアックさが詰まっていると思います。音楽好きの人はもちろんですが、楽器自体のことにも興味をお持ちの人には踏み込んでみてほしい世界です。



▲夢中で続けていたことが仕事になったと話す豊崎さん



▲豊崎さんの作業デスク。ここで様々な作業が行われます



やりたいこと  
が見つかる!

音楽・芸能・楽器の専門学校

TOKYO



Entertainment

**音楽アーティスト科**

- ヴォーカルコース
- ダンスヴォーカルコース
- シンガーソングライターコース
- ギターヴォーカルコース
- サウンドクリエイターコース
- ギターコース
- ベースコース
- ドラムコース

**声優芸能科**

- 声優養成コース
  - ▶演技専攻
  - ▶アーティスト専攻
- 俳優養成コース

**音楽芸能スタッフ科**

- アーティストスタッフコース
  - ▶マネージャー/レコード会社専攻
  - ▶ファンクラブ/デザイン専攻
- レコーディングコース
- PA&レコーディングコース
- PAコース
- 照明コース
- ライブハウスコース
- ローディーコース
- 舞台製作コース
- 企画制作コース
- 音楽スタッフ総合コース
  - ▶プロダクション専攻
  - ▶サウンドエンジニア専攻
  - ▶照明/映像専攻

**ピアノ調律科**

- ピアノ調律コース
- ピアノ/管楽器コース

**管楽器リペア科**

- 管楽器リペアコース
- 管楽器/打楽器コース

**ギタークラフト科**

- ギター製作コース[2年制]
- ギター製作総合コース[3年制]
  - ▶ギター製作専攻
  - ▶ギターリペア専攻
  - ▶アンプ・エフェクター専攻
  - ▶ギターデザイン専攻
- 楽器技術研究科



OPEN CAMPUS

体験授業・学科共通説明会・コース別オンライン個別相談会

7月3日(日)

8月6日(土)

8月28日(日)

7月30日(土)

8月7日(日)

9月11日(日)

7月31日(日)

8月21日(日)

9月25日(日)

お申込み・体験授業の  
詳細はコチラ



「平日学校見学会」・  
「オンライン学校説明会」等も  
開催中!

学校法人イーエスピー学園

専門学校 **ESPエンタテインメント東京**

入学事務局(本館)  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-19  
TEL:03-3368-6840/FAX:03-3368-6815

FREE 0120-37-6986

<https://www.esp.ac.jp/tokyo/>



Twitter



YouTube



## コンサート制作にまつわる仕事

## 企画の立案から運営までを行います

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は「コンサート制作」にまつわる仕事について、日本工学院専門学校のコサート・イベント科／コンサート制作コースの森永先生に伺いました。

### — コンサートやイベント制作の仕事について教えてください

**森永**：アーティストのワンマンライブから日本各地を回る全国ツアーやフェスへの参加に至るまで、多様化したコンサートやイベントの企画立案から運営までのすべてを行う仕事です。具体的には「人」「モノ」「お金」「時間」の管理を行います。また、イベントを開催する会場が大きくなると、それに関わるスタッフの人数も増えます。すると、食事や備品等の数も増えるので、必然的に経費も増える…という具合に、すべてが連動しています。それから、想像力を動かして「ひょっとしたら、こうなるかも…」ということを考え、その対策を先に立てておくこともあります。例えば、「イベントの本番に台風が来たらどうする？」とか「アーティストが体調不良になったらどうする？」など、あらゆる危機に対する管理能力が必要になり、それらを仕事を通して鍛えることができるのも、この仕事の一面です。

### — 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？高校時代にやっておいた方が良くも教えてください

**森永**：プロとして音楽業界で働くということは、自分の好きな音楽だけに関われるということではないので、まずは「さまざまな音楽を知っておく」ということが大切です。つまり、普段は聴かないような音楽もたくさん聴くようにしてください。また、アーティストと会

話する際に「あのアーティストの、あの演出！」などの話題が日常会話でも出てくることが多いので、洋楽まで手広く知っておくと、アーティストとの信頼関係を早く作ることができます。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で「ライブ配信」をする際の「映像」の知識も必要となりました。演出としての映像や収録としての映像などは切っても切れない関係ですので、映像作品（映画やMVなど）もたくさん知っておいた方が良くと思います。

### — この仕事の楽しいところを教えてください

**森永**：楽しいことはたくさんありますが、一番はコンサート会場で見えるお客様の笑顔やアーティストの笑顔を見た時です。「こんな素敵な空間を作る一員になった！」という気持ちは、この仕事の醍醐味です。また、自分が関わったイベントがテレビで放送されたり、映像作品として商品化されたりすることも多く、時にはスタッフ欄に自分の名前が掲載されることもあるので、自分の仕事を誇り高く思える瞬間も多くあります。それから、全国ツアーに出る制作仕事の場合、ご当地の名産や、その土地でないと体験できないことも多々あるので、仕事をしながら地方の魅力を感じることもあります。コンサート制作は人と多く関わる仕事なので、日本全国に幅広い人脈ができるというのも他の仕事にはない部分だと思います。

### — この仕事の大変なところを教えてください

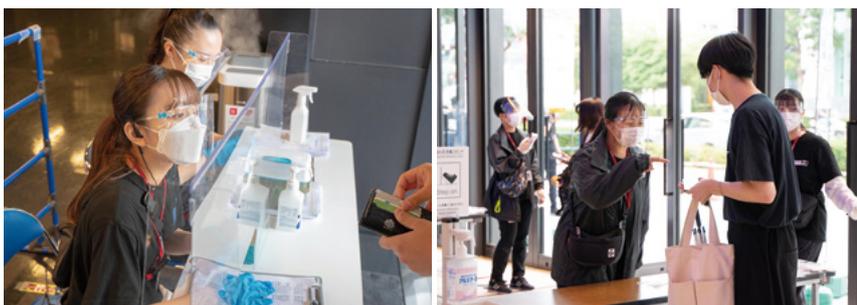
**森永**：一番大変なのは「急な変更が多い仕事」という部分です。曲順や演出などのステージに関わることもあれば、悪天候で中止や延期などの運営に関係することまで、「ライブが終了するまでは何が起こるかわからない」という懸念を抱えながら仕事をするのが大変な部分です。また、アーティストによって準備するものや段取りが違うことも多いので、現場によって正解が変わります。「前は褒められたことでも、今回は必要がなかった」ということも日々あるので、自分のモチベーションを保ちながらも仕事を先に進めないといけない部分も大変なことの1つかもしれません。

### — この仕事は、どんな人にオススメですか？

**森永**：「とにかく音楽が好き！」ということが基本にありつつ、「人のためになりたい！」というホスピタリティーがある人にオススメです。「人見知りだし、いろいろな人とコミュニケーションを取りながら、物事を進めていくのは自分には無理かも…」と思っていても、日々強制的に人と交流することになります。すると、気が付いたら「なりたかった自分」になっていたりもするので、「人見知りを直して、音楽の仕事に携わりたい！」という人にもオススメです。

### — この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか。3つほど教えてください

**森永**：コンサート制作の仕事は「懲りない」「めげない」「驕（おご）らない」が大切です。また、この仕事は華やかな反面、大きなプレッシャーもかかります。その重責を楽しめる「楽観性」と絶対に失敗できないことへの「責任感」という、一見相反するよう見えますが、この2つのバランスも大切です。また、感染症の影響で今までの常識が通用しなくなっている現状もあるので、新しい発想や感性を持つことも今後は大切になると思います。



▲ Zepp Haneda (TOKYO) と KT Zepp yokohama での外部実習ライブ

RECORDING  
ENGINEER

DANCER

# ONE WITH MUSIC!

プロもうらやむ充実した施設・設備。業界屈指のスキルを有した講師陣。

強力な業界デビュー&就職サポートで将来も安心。

あらゆる音楽好きにマッチした環境の日本工学院で、

あなたの想いを音楽に乗せて奏でよう!

VOCALIST

MUSICIAN

CONCERT  
STAFF

日本工学院

×

avex entertainment

Starline  
84.MAZ  
starline84t.com

FMヨコハマ  
「Starline」  
毎週土曜日20:30~0.A.  
(バーナリディ)  
坂詰美紗子(本校卒業生)  
中村家(やるせなす)

オープンキャンパス+体験入学

7/24(日) 30(土) 31(日)

詳しくはホームページへ

## ミュージックアーティスト科 職業実践専門課程

浦田キャンパス / 八王子キャンパス  
プレイヤーコース/ヴォーカリストコース/サウンドクリエイターコース

## コンサート・イベント科 職業実践専門課程

浦田キャンパス / 八王子キャンパス  
コンサート制作コース/コンサートPAコース/コンサート照明コース/  
コンサート舞台コース/イベント企画コース

## 音響芸術科 職業実践専門課程

浦田キャンパス / 八王子キャンパス  
レコーディングエンジニア専攻/MAエンジニア専攻/ラジオスタッフ専攻

## ダンスパフォーマンス科 職業実践専門課程

浦田キャンパス  
プロダンサー専攻/バックダンサー専攻/ダンス&ヴォーカル専攻/  
コレオグラファー(振付)専攻/ダンスインストラクター専攻/  
テーマパークダンサー専攻

# 日本工学院 ミュージックカレッジ

## 日本工学院専門学校 日本工学院八王子専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

<https://www.neec.ac.jp/>

LINE @nihonkougakuin | Twitter @neec\_official | Instagram nihonkogakuin

総合選抜型  
(AO入学)  
エントリー  
受付中!



## 音響にまつわる仕事

## 音声の拡散が必要な現場に従事します

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は音響にまつわる仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ／音楽総合学科 PA コースの真路先生に伺いました。

## — 音響の仕事について教えてください

**真路**：端的に例えると、「大きい音が出ているところに必要な仕事」と言えると思います。具体的には、ライブやコンサート、ミュージカルや演劇などのイベントをはじめ、ショッピングモールでの催し物、結婚式や披露宴などのブライダル、商店街でのお祭りなど、人がたくさん集まるため、音声の拡散が必要な現場で作業をする仕事です。軽音楽部の皆さんにとっては、プロのアーティストのライブやレコーディングに従事するのが音響の仕事のイメージとしてあると思いますが、私自身がそうであるように、ぜひイベントや催し物における音響の仕事もあることを知って欲しいと思っています。

ちなみに、本校の卒業生の就職先としては、会社への所属が多いのですが、ライブやコンサート、フェスなどをメインとしている音響会社から、いわゆる「町の音響屋さん」のような規模の会社まで多岐に渡ります。一人ひとりの学生によって、どういった道に進みたいのかが細分化されますが、基本としては会社への所属になると思います。

## — 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？高校時代にやっておいた方が良くても教えてください

**真路**：これは僕自身の経験でもあるのですが、やっておいて良かったと思うのは「音楽をたくさん聴くこと」です。今はサブスクやYouTubeで音楽を聴くことができますが、

それは音楽を聴いているというよりも「音楽を消費している」という感覚に近いと思います。良い音で、しっかりと音楽を聴くことが大切で、「この楽器は、こうやって鳴っていて…」という風に分析をしながら音楽が聴けるようになると、音に対する感覚が敏感になり、相手の言っていることや要望を理解するスピードが速くなります。専門的な知識は入学後に学べるので、高校生の段階では特に必要ありません。

それから、8の字巻きの練習でしようか…(笑)。割と軽音楽部の皆さんは自己流の8の字巻きをされていることが多いのですが、音響業界では日本全国、どこへ行っても同じ巻き方をしています。業界標準の8の字巻きを習得しておく、普段の部活動にも役に立つので、ぜひ挑戦して欲しいと思います。

## — この仕事の楽しいところを教えてください

**真路**：僕は、サビでみんなが手を上げて盛り上がるような、ノリの良い音楽が好きなのですが、客席の後方で仕事をしている場面で「あ～、今、この大きな音を出しているのは俺なんだよな…」という風にゾクゾクするのが楽しいと感じる瞬間です。ライブの現場で一番楽しいと感じるのは、この部分ではないでしょうか。イベントでの音響に関しては、お客さんが楽しそうに会話をしていたり、笑っていたり、食事をしたりしている様子を見ると、仕事へのやりがいを感じます。

## — この仕事の大変なところを教えてください

**真路**：毎日会社に出社する…というような仕事ではないので、現場での仕事が続けば続くほど、生活のリズムが崩れてしまいがちになります。体力もあるには越したことはないのですが、脳が起きていないような状況になりがちなので、自分の中でリズムを作るのが苦手な人には大変に感じるかもしれません。

## — この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか。3つほど教えてください

**真路**：音響の仕事は音楽を聴いたり、ライブやフェス、イベントなどに参加するのが好きだったり、人が楽しんでいる様子や喜んでくれることにやりがいを感じる人に向いていると思います。大切なことは、いずれもどんな仕事や職種にも当てはまることだと思いますが、1つ目は、相手を尊重しつつ、自分の意見をしっかりと主張できることです。ただのイエスマンになるのではなく、機材の限界値や現場の状況を説明して相手に納得してもらい、その仕事を円滑に終わらせる…というコミュニケーション能力が必要になります。

2つ目は、腐らないことでしょうか。日々のルーティーンや仕込みのやり方など、自分なりの考えや理由があって従事していると思いますが、時には相手と意見がぶつかることもあります。その際に「自分が間違っていたんだ…。自分なんて…」という風に必要以上に落ち込み、自分の卑下するのではなく、「そういう考え方もあるんだな。じゃあ、こうやって取り入れよう！」という風に頭を柔らかくして、気持ちを切り替えて仕事に臨む姿勢を持ってもらいたいです。

3つ目は、興味や探求心だと思います。常に機材や技術がアップデートされるので、「今まで自分は、こうやってきたから…」というのがどんどん通用しなくなります。新しいものをしっかりと自分の中にインプットすることが大切です。



▲それぞれの楽器にマイクをセッティングします



▲ミキサーを操作し、会場の音響を調整します

# General Music Department

Vocal Course  
Guitar Course  
Bass Course  
Drums Course  
Sound Creator Course  
Public Address Course  
Stage Lighting Course  
Recording Course

Become a professional!

## 夏のTVAオープンキャンパス2022

8/6 (SAT), 7 (SUN), 12 (FRI), 13 (SAT), 14 (SUN), 21 (SUN), 28 (SUN)



TVAエンタメ祭スペシャル3DAYS!  
8/12 (FRI), 13 (SAT), 14 (SUN)

経験不同 参加無料 要予約

ミュージシャンではボーカルやプレイヤーのパート別レッスン、課題曲でのバンドレッスン、スタッフではライブホールでPA・照明体験、スタジオでサウンドクリエイターのお仕事を体験しよう!

現役で活躍するプロの先生や在校生が丁寧に対応するので、ぜひお気軽にご参加ください!



ご予約はこちら!

## 音楽総合学科

第一線で活躍するプロが直接指導!  
実践的カリキュラムで憧れの業界へ!

授業は実習をメインに、業界の第一線で活躍するプロが少人数体制で直接指導。徹底的に現場を意識した設備・環境の中で学びながら、2年間で現場の即戦力となる人材へと導きます!



Vocal / Guitar / Bass / Drums



Sound Creator



Public Address



Stage Lighting



Recording

TOKYO VISUAL ARTS

Adachi学園グループ

学校法人 **東京ビジュアルアーツ**  
専門学校

〒102-0081 東京都千代田区四番町11 [www.tva.ac.jp](http://www.tva.ac.jp)

お問い合わせ

東京ビジュアルアーツ 入学相談室

☎ 0120-64-6006

Email: info@tva.ac.jp



設置学科: 音楽総合学科 / 映像学科 / マスコミ出版・芸能学科 / 写真学科 / 特殊メイク学科 / パフォーミングアーツ学科 / ダンス学科

## 照明にまつわる仕事

## 観客の反応を肌で感じられる仕事です

音楽やエンターテインメントに関する職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回は照明にまつわる仕事について、専門学校名古屋ビジュアルアーツ／音響学科 照明コースの野田先生に伺いました。

#### ー 照明にまつわる仕事全般について教えてください

**野田**：照明の仕事はコンサートやイベントをはじめ、演劇やテレビなど、様々な演目に携わることになります。具体的には、それぞれの現場に相応しい灯体や機材を選ぶところから始まり、現場で色味や動きをプログラミングし、本番では曲のキッカケや事前に決められたタイミングに合わせてスイッチを押して、明かりをコントロールする…という仕事です。

本校に入学する学生の大半はコンサートやライブを見て、照明に興味を持った…という人が多いのですが、その他にも、単純にお芝居を見たり、音楽を聴くのが好きで、そういった中で「自分も裏方として、この業界の仕事に携わりたい」という動機で進学を希望する学生もたくさんいます。

#### ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか？高校時代にやっておいた方が良くも教えてください

**野田**：特に「入学前に、これをした方が良いでしょう」というものはないのですが、実際に仕事をしていく中で電流や電圧といった「電気」の知識が必要になるので、それらの簡単な復習ができると良いですね。また、機材の重量や積載量を計算する場面も多々あるので、数学の知識も今のうちから蓄えておけると、将来も役立てることができると思います。

仕事になると、好き／嫌いにかかわらず、いろいろな分野の照明に携わったり、様々なジャンルの音楽を聴いたり、お芝居を見たり…ということが多くなるので、学生のうちからライブ映像やミュージックビデオを見たり、音楽番組を視聴するなど、いろいろな映像作

品を見て、その中で「カッコいいな…」と思った照明や演出のメモを取り、自分の知識としておくのは高校生のうちからできて、実際に照明の仕事に携わるようになってからも生かしていけることではないでしょうか。

なお、楽器を演奏できたり、譜面が読めるというのは、できるに越したことはないですが、必須ではありません。照明のプランを考える際に、いわゆる「譜割」といって、Aメロが何小節で、Bメロが何小節で…という数え方をするので、そういう場面では軽音楽部や吹奏楽部出身の人は入り込みやすいのではないのでしょうか。コンサート系の照明に携わるのであれば、そのスキルは重宝すると思います。一方、演劇系の照明はまったく異なり、「決められたキッカケを逃さずに反応する」という反射神経に通じる部分の方が重要なので、楽譜を読めたり、楽器を演奏できるというのは、そこまで重要なポイントではないと考えています。

ちなみに、本校に入学する学生が所属していた部活動は、照明コースは軽音楽部や吹奏楽部、演劇部で照明を担当しており、そこで照明や裏方の仕事に興味を持った…という人が多い印象があります。

#### ー この仕事の楽しいところを教えてください

**野田**：照明の効果は目に見えてわかるものなので、出演者や観客の反応を身近に感じられるところが楽しい部分だと思います。実際に演者の方から「この曲の、あの照明がかっこ良かった！」と言っていたり、コロナ禍以前のこととなりますが、コンサートの現場でも会場がザワザワ…としている中、定刻になって会場が暗転し、「おお～！」という大

歓声を聞くことができるなど、照明に対するレスポンスを肌で感じられるのが醍醐味です。そのキッカケを照明担当である自分が握っている、責任重大なのですが、やりがいを感じられるシーンの1つだと思います。

#### ー この仕事の大変なところを教えてください

**野田**：どうしても、本番前日は夜遅くまでの作業になりがちなので、大変な部分の1つです。加えて、野外でのコンサートの場合は空が暗くならないと照明が映えないので、必然的に夜間の仕事になります。また、照明の仕事は大きな機材を運んだり、重たい灯体を取り付ける場面も多々あるので、体力に自信のない人は大変に感じてしまうかもしれません。

#### ー この仕事は、どんな人にオススメですか？

**野田**：照明の仕事は自分だけで成り立つものではなく、いろいろなシチュエーションがあったり、様々なセクションの人たちと一緒にあって、1つのステージを作り上げることになります。そのため、人と関わるのが好きであったり、音楽はもちろん、コンサートやイベントが好きなど、いろいろなことに自分から率先して挑戦していけるような、好奇心が旺盛な人が向いていると思います。

#### ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか。3つほど教えてください

**野田**：一番大切なことは、コンサートやイベントなどを「好きでいること」だと思います。好きだからこそ、頑張りましょう！と思えますし、夜遅くの作業になってしまっても、カッコよくしよう！という思いがあるなど、気持ちの部分で上げられます。2つ目は、たくさんの人たちと協力して、1つのものを作り上げることができる「協調性」。3つ目は、新しい機材や技術が次々と登場したり、便利な環境が整ってきている中で、常に新しいことに挑戦し、学ぼうとする「チャレンジ精神」です。照明の仕事は学校で教わることに以上に、現場で学ぶことが多いので、どんなことでも勉強するぞ！という気持ちで取り組める姿勢が大切だと思います。



▲安全に気を配りつつ、1つ1つの灯体を取り付けます



▲ミュージシャンを交えたホールでのライブ実習の様子

## 音響学科

ライブパフォーマンス

## ミュージシャン学科

夢に近づく  
5学科と  
31のコース

ボーカルコース  
ダンスボーカルコース  
ギターコース  
ベースコース  
ドラムコース  
キーボードコース

## 音響学科

PAコース  
照明コース  
企画・制作コース  
レコーディングエンジニアコース  
映像音響コース  
サウンドクリエイターコース

## 映像学科

バラエティー番組コース  
ドラマコース  
ライブ・中継技術コース  
映画監督コース  
映画技術コース  
動画ディレクターコース  
動画ミュージックビデオコース  
動画VFX・3DCGコース

## 写真学科

コマーシャルフォトコース  
ファッションフォトコース  
ライブフォトコース  
スポーツフォトコース  
ブライダルフォトコース  
営業写真コース  
写真作家コース  
クリエイティブフォトコース

## パフォーマンスアート学科

声優コース  
俳優・タレントコース  
ダンサーコース

# エンタメの総合校

# だから できること

## 音響学科

レコーディング

## 映像学科

MV撮影

## 写真学科

アーティスト写真撮影

ミュージシャン学科 オープンキャンパス開催中!

8/3 水 ・ 7 日 ・ 11 祝木

レッスン体験

レッスン体験

レッスン体験

ご予約は  
こちらから

21 日 ・ 26 金 ・ 28 日

LIVE 体験

レッスン体験

レッスン体験



学校法人Adachi学園

NVA 名古屋ビジュアルアーツ

NAGOYA VISUAL ARTS

お問い合わせ

入学相談室

TEL:0120-7575-48

Email:go@n-visual.net



文部科学省認定専修学校

職業実践専門課程認定校

パフォーマンスアート学科 / ミュージシャン学科 / 音響学科 / 映像学科 / 写真学科  
Performing Arts / Musician / Sound / Broadcast&Movie / Photo



2023年度より  
ポピュラー音楽コースは  
ポップ&  
ロックミュージック  
コースに  
名称変更します。

# Pop & Rock Music, Jazz

## 昭和音楽大学 | 昭和音楽大学短期大学部

### ポップ&ロックミュージックコース ジャズコース

特設ページOpen! ▶



### Event Information 2022

📶 イベントの一部の内容はオンラインでも受講できます!

**夏期講習会** 受験生受診率No.1!!  
夏休みにレベルアップ

8/2 Tue ~ 5 Fri

●実技個人レッスン  
●ポピュラー音楽理論 ●DTM講座 他

対面 オンライン

**受験講習会** 個人レッスンで  
プロの技を身につけよう!

8/27 Sat 9/24 Sat 10/22 Sat 11/13 Sun 11/27 Sun 他

●実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 他

対面 オンライン

**オープンキャンパス** 参加無料  
実事前予約

8/5 Fri 9/24 Sat 10/30 Sun 12/11 Sun 12/25 Sun 他

対面 オンライン

**アンサンブルセミナー** 参加無料  
実事前予約

本学教員がアドバイス!! ジャムセッションを楽しもう。

[個人またはバンド] 9/24 Sat 10/22 Sat 2023 3/26 Sun

単位で参加可能

対面

▶6月現在の情報です。日程や内容は変更となる場合がありますので、詳細や最新情報はウェブサイトをご覧ください。◀

お申込・詳細はウェブで

**行こうよ! SHOWA!**

～昭和音楽大受験生応援サイト～

サイトへはこちらから!

お問い合わせ・資料請求/入試広報室

☎ 0120-86-6606

✉ nyushi@tosei-showa-music.ac.jp

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1

📶 **オンライン個別相談、実施中!**

[平日11:00~18:00(1回30分程度)]

本学教員・進学アドバイザーが質問にお答えします。

◎希望日の3日前までにお申込ください。

### 教員紹介

(2022年6月現在)



★タイガー大越客員教授は年に数回、特別レッスンを行う予定です。

全部わかるかな？

軽音ミュージッククイズ

# MUSICQUIZ 4



## 第1問

奏法 & テクニック



難易度



奏法で、ギターやベースをピックで弾く時にアップ/ダウンをきちんと守ったり、ドラムのスティッキングの左右交互を守ることを何ていう？



「ピアノ」といえば色は黒。それは日本発祥なのですが、ピアノを黒くした日本ならではの理由とは？

- A：湿気対策
- B：格式を持たせる
- C：粗雑さを隠す

## 第2問

楽器 & 機材

難易度



## 第3問

音楽理論



難易度



ロックでよく使われる音階「ペンタトニック・スケール」は、実は日本の童謡や演歌などでも馴染み深い音階です。当時の日本での呼び名は？

- A：平安音階
- B：ヨナ抜き

Cメジャー・ペンタトニック・スケール



ピックを持つ手の指で指板を押さえて弾く「タッピング奏法」を発明し、1978年に衝撃のデビューを飾った伝説的ギタリストの名前は？

## 第4問

音楽史

難易度



全問、答えられたかな？  
今わからなくても、答えを知って覚えればいいんだ。  
目指せ、軽音楽の「ものしり博士」。

正解と詳しい  
解説はこちら…



知っておくべき

# 10 軽音楽部の常識

ドラム編



ハイハットの踏み心地は  
このバネで調整できます



ネジが堅くて動かない時は  
スティックを活用します



タムタムの角度を変更する  
際はネジを緩めましょう



バスドラムはスパーを調整  
して床から少し上げます



ビーターの長さを調整する  
とスピードが変わります



椅子（スローン）は浅めに  
座ると足を動かしやすいです



シンバルの足の1本が  
手前に来るように配置します



当たる角度を考えて  
セッティングしましょう



スティックが垂直に  
当たると折れやすいです



必ずスティックの予備を  
用意しておきましょう



# Choose your color.

選べる多彩な23カラー

ストレートなロック・サウンドを携えた“WST-STD”。  
まるでカスタムオーダーのような感覚でボディ・カラーをチョイス出来るトータル23カラーをラインナップ。



**Greco**<sup>®</sup>

WS Series **WST-STD**  
¥Open Price  
Proudly made in Japan

Fender®

MUSTANG™  
MICRO

PLUG IN. CUT LOOSE.



©2022 Fender Musical Instruments Corporation. All rights reserved.

DIGIRECO.JR

平成25年12月18日（水）創刊  
令和4年7月20日（水）発行

■DIGIRECO.JR（〒211-0001、千葉県市川市）第11巻7号通巻53号 ■監布：高等学校音楽部 2.038校  
■監修・発行：特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校音楽連合会 〒224-0003 神奈川県横浜市中央1-37-6-405

TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900

無印